

令和 7 年度 神戸市内地域組織基礎調査

ふれあいのまちづくり協議会

調査結果報告書

令和 8 年 3 月

神戸市

【目次】

(1) 調査概要	1
① 調査の目的	1
② 調査対象	1
③ 調査方法等	1
④ 調査の対象と回収状況	2
⑤ 調査結果の表示方法	2
(2) 団体の活動	3
① 活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模（問2）	3
② 主な担い手の年齢の特徴（問3）	3
③ 参加者の顔ぶれ（問4）	4
④ 活動頻度（問5）	4
⑤ 現在実施している活動と再開したい活動（問6）	5
⑥ 今後特に力を入れたい活動（問6）	6
⑦ 直近3年間で縮小または中止した活動の要因（問7）	7
⑧ 直近3年間で縮小または中止した具体的な活動内容（問7）	7
⑨ 活動で重視している分野（問21）	7
(3) デジタル技術の活用	8
① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問8）	8
② デジタル技術の導入にあたっての課題（問9）	9
③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問10）	10
(4) 他団体との連携	11
① 他団体との連携の状況（問11）	11
② 地域内外の連携に対する考え（問12）	12
③ 連携に対しての関心（問13）	12
④ 他団体と連携した取組事例（問14）	13
⑤ 他団体と連携して実現したいこと（アイディア）（問15）	15
⑥ 外部に委託している業務（問16）	16
⑦ 外部に委託している業務の具体的な内容（問16）	16
⑧ 地域住民が活動に参加するメリット（問17）	17
(5) 活動を進めていくための課題	18
① 活動を進めていくための課題（人材面）（問18①）	18
② 活動を進めていくための課題（運営面）（問18②）	19
③ 担い手不足面での課題（問18③）	20
④ 地域住民への情報伝達における課題（問18④）	21
⑤ 役員や中心メンバーの業務負担（問19）	22
⑥ 役員・スタッフの関与者を増やすためアイディア（問20）	23
(6) 団体が活動している地域の状況等	24

① 活動している地域の課題（問23）	24
② 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問24）	25
(7) 今後の活動に向けて	26
① 活動を活発にしていくために必要なこと（問25）	26
② 市の対応に対する意見（問26）	27
③ 活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組み（問27）	27
(8) 代表の活動状況.....	28
① 代表の選出方法（問28）	28
② 代表になってからの年数（問29）	28
③ 地域活動の担い手として参加したきっかけ（問30）	29
④ 地域活動のための月間活動日数（問31）	29
⑤ 会長として特に感じる負担と行政に支援してもらい分野（問32）	30
⑥ 他団体や地域住民に勧めたい活動（問33）	30
⑦ 他団体や地域住民に勧めたい活動（問33）	31
(9) 代表の状況	32
① 代表（回答者）の状況-年代（問34①）	32
② 代表（回答者）の状況-現在の地域（小学校区）での居住年数（問34②）	32
③ 代表（回答者）の状況-就業状況（問34③）	33
(10) 自由意見	34
① 実施している活動/休止している活動/今後特に力を入れたい活動（問6）	34
② デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問8）	34
③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問10）	34
④ 他団体や外部連携に対しての関心（問13）	34
⑤ 地域住民が活動に参加するメリット（問17）	34
⑥ 活動を進めていくための課題（人材面）（問18①）	35
⑦ 活動を進めていくための課題（運営面）（問18②）	35
⑧ 担い手不足面での課題（新規加入者が見つからない理由）（問18③）	35
⑨ 地域住民への情報伝達における課題（問18④）	36
⑩ 役員や中心メンバーの業務負担（問19）	36
⑪ 役員・スタッフの関与者を増やすためアディア（問20）	36
⑫ 今後の展望について（問22）	36
⑬ 活動している地域の課題（問23）	37
⑭ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問25）	37
⑮ 活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組み（問27）	37
⑯ 地域活動の担い手として参加したきっかけ（問30）	37

(1) 調査概要

① 調査の目的

神戸市では、おおむね3年ごとに、市内で活動されている地域組織のみなさまの活動実態及び課題などを把握するためアンケート調査を実施している。

令和元年以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、対面での活動が制限されたり、感染防止対策が必要となるなど、地域活動の実施にあたっては様々な工夫をされるとともに、様々な地域課題への対応や、デジタル技術の活用等、新たな取組にもチャレンジされていると考えられる。そこで、地域組織の活動に携わっている市民の取り組みや感じていることを把握し、今後の施策に活用する。

② 調査対象

下記の団体を対象とする。

	概要	備考
ふれあいのまちづくり協議会	高齢者や障がい者、子どもたちなどが、あたたかいふれあいの中で互いに支え合って暮らしていくことができる地域社会づくりをめざしている。自治会、民生委員・児童委員協議会、婦人会、老人クラブ、子ども会、ボランティアなどの各種団体の代表者などにより、おおむね小学校区単位で構成されており、地域の実情に応じた福祉活動や交流活動などを実践し、地域福祉の向上をめざしている。	全ての団体を調査対象とした。

③ 調査方法等

調査方法	調査対象団体の代表者に調査票を郵送配付し、返送又はWeb回答で回収した。
調査期間	令和8年2月17日（火）～2月27日（金）Web回答〔3月5日（木）〕

④ 調査の対象と回収状況

	発送数	未着数	有効発送数	有効回収数	回収率
全市	193	0	193	136	70.5%
東灘区	15	0	15	9	60.0%
灘区	16	0	16	6	37.5%
中央区	15	0	15	11	73.3%
兵庫区	16	0	16	10	62.5%
北区	20	0	20	17	85.0%
長田区	15	0	15	14	93.3%
須磨区	21	0	21	15	71.4%
垂水区	21	0	21	12	57.1%
西区	25	0	25	15	60.0%
不明	29	0	29	27	93.1%

⑤ 調査結果の表示方法

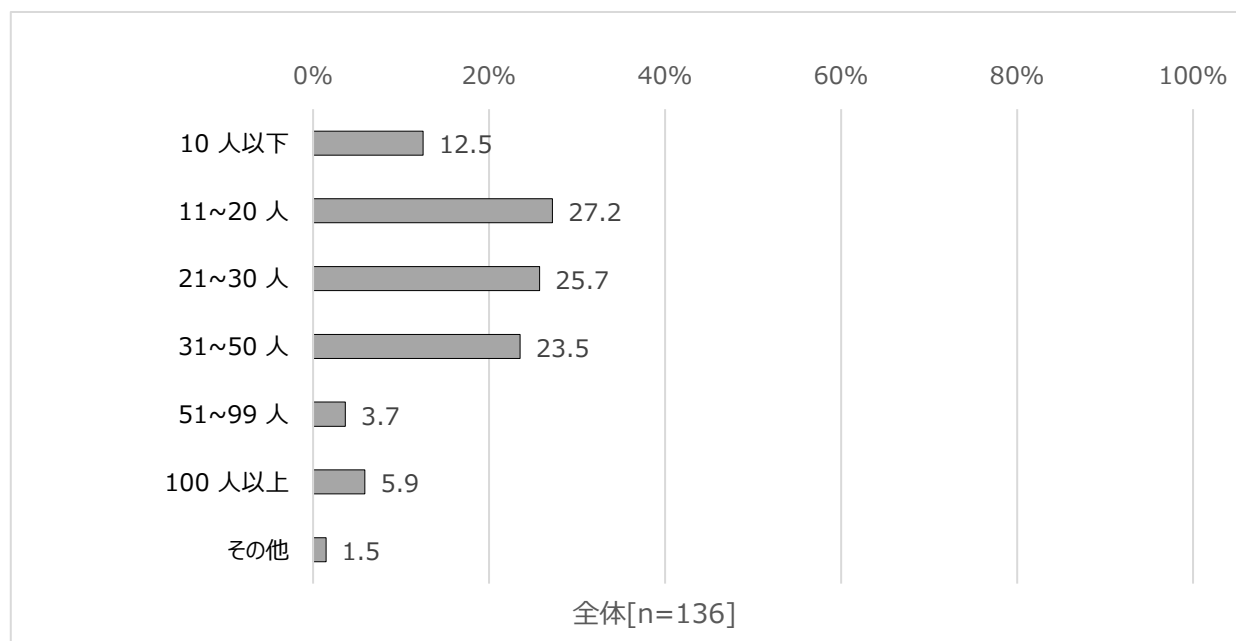
- ・比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの百分率(%)で表しています。このため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・各設問のサンプルサイズは、“n=●”として記載しています。
- ・〔複数回答〕とある設問は、2つ以上の選択肢を回答することが可能な設問です。このため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

(2) 団体の活動

①活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模（問2）

活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模は、「11～20人」が27.2%と最も多く、次いで「21～30人」が25.7%、「31～50人」が23.5%などとなっている。

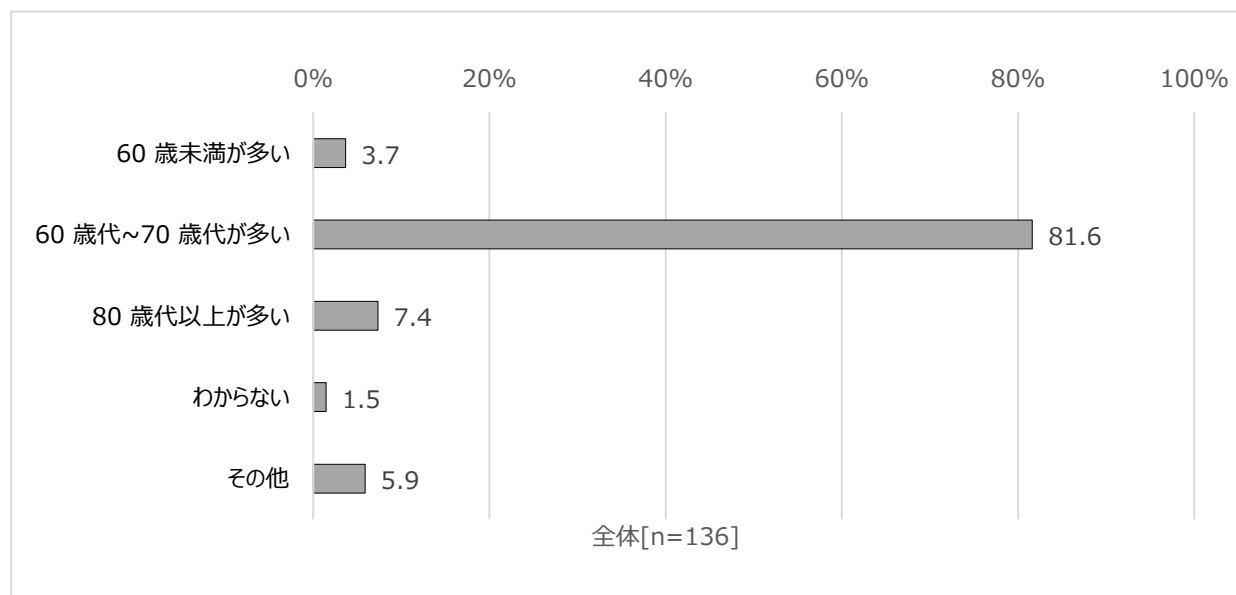
図表 1 活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模



② 主な担い手の年齢の特徴（問3）

主な担い手の年齢の特徴は、「60歳代～70歳代が多い」が81.6%と最も多くなっている。

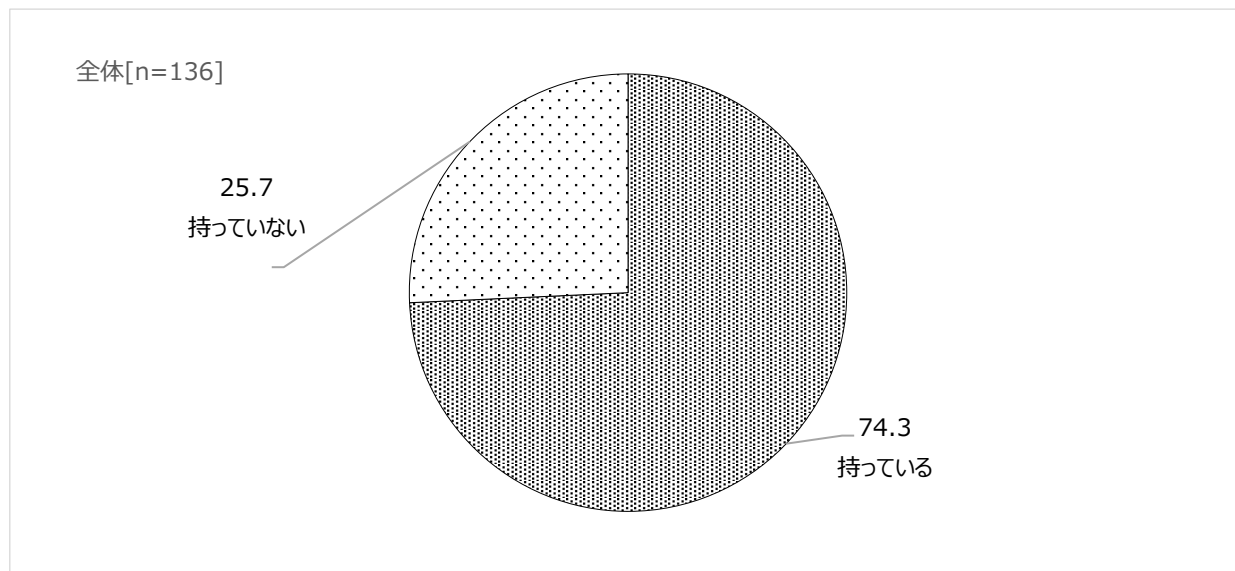
図表 2 主な担い手の年齢の特徴



③参加者の顔ぶれ（問４）

参加者の顔ぶれは「変わらない印象をもっている」が74.3%となっている。

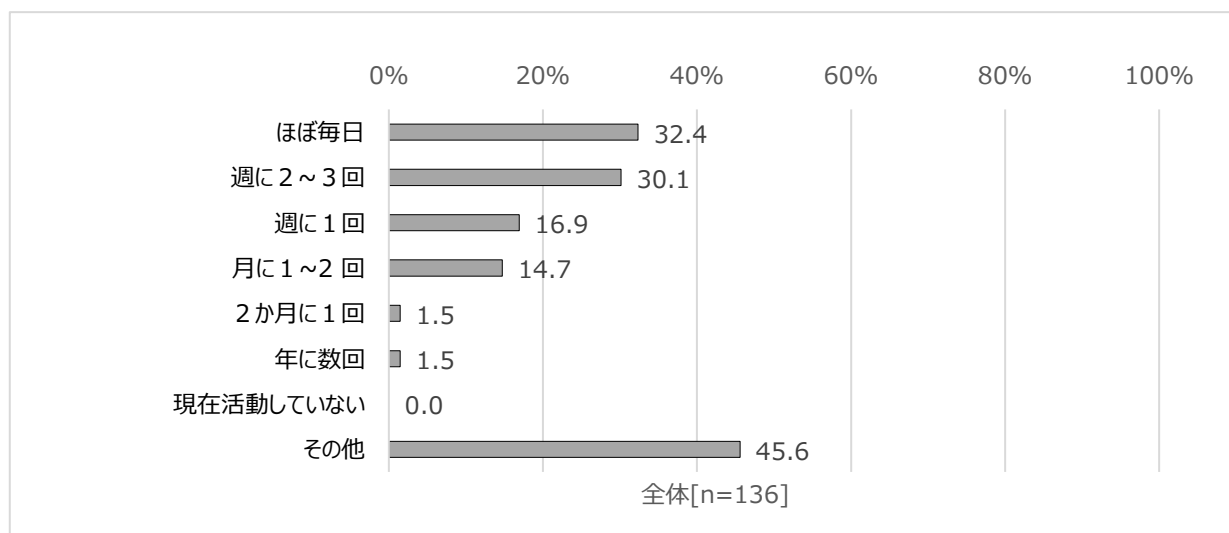
図表 3 参加者の顔ぶれ



④活動頻度（問５）

活動頻度は、「ほぼ毎日」が 32.4%と最も多く、次いで「週に 2 ～ 3 回」が 30.1%、「週に 1 回」が 16.9%などとなっている。

図表 4 活動頻度



⑤現在実施している活動と再開したい活動（問6）

現在実施している活動は、「⑩ふれあいサロン（喫茶）」が84.6%と最も多く、次いで「⑫防災福祉コミュニティ運営」が69.9%、「⑨ふれあい給食」が69.1%などとなっている。

休止しているが再開したい活動は、「④その他」19.1%と最も多く、「②地域ボランティアの発掘」が7.4%、次いで「⑪子育てサークル」が6.6%、などとなっている。

図表 5 現在実施している活動と再開したい活動〔複数回答〕



⑥今後特に力を入れたい活動（問 6）

今後特に力を入れたい活動は、「②地域ボランティアの発掘」が39.7%と最も多く、次いで「⑧多世代交流を目的とした講座開催」と「⑭その他」が25.7%などとなっている。

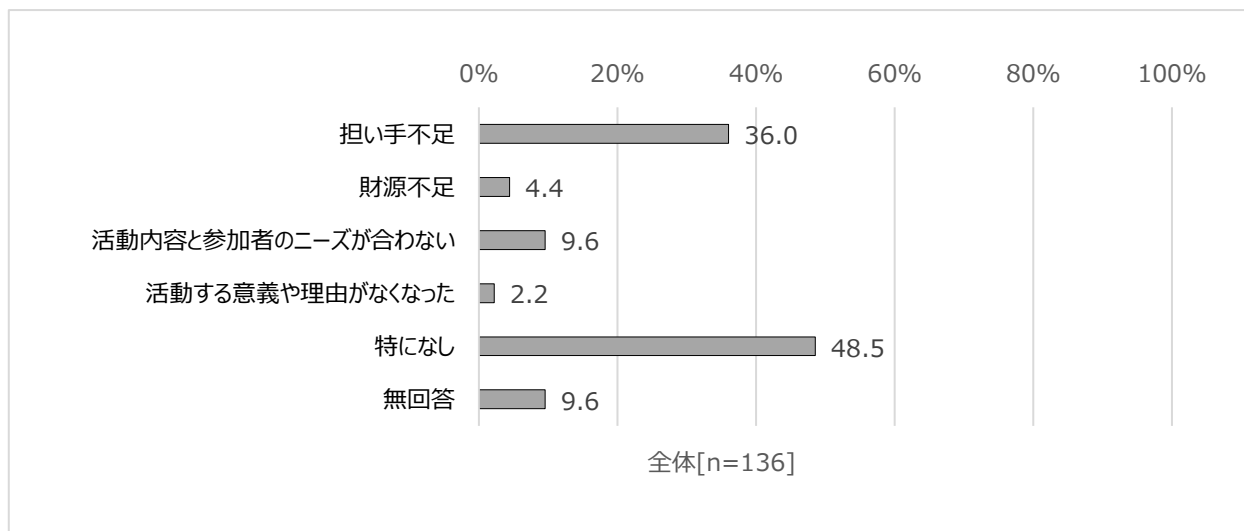
図表 6 今後特に力を入れたい活動〔複数回答〕



⑦直近 3 年間で縮小または中止した活動の要因（問 7）

直近3年間で縮小または中止した活動の要因は、「特になし」が48.5%と最も多く、次いで「担い手不足」が36.0%、「活動内容と参加者のニーズが合わない」が9.6%などとなっている。

図表 7 直近3年間で縮小または中止した活動の要因〔複数回答〕



⑧直近 3 年間で縮小または中止した具体的な活動内容（問 7）

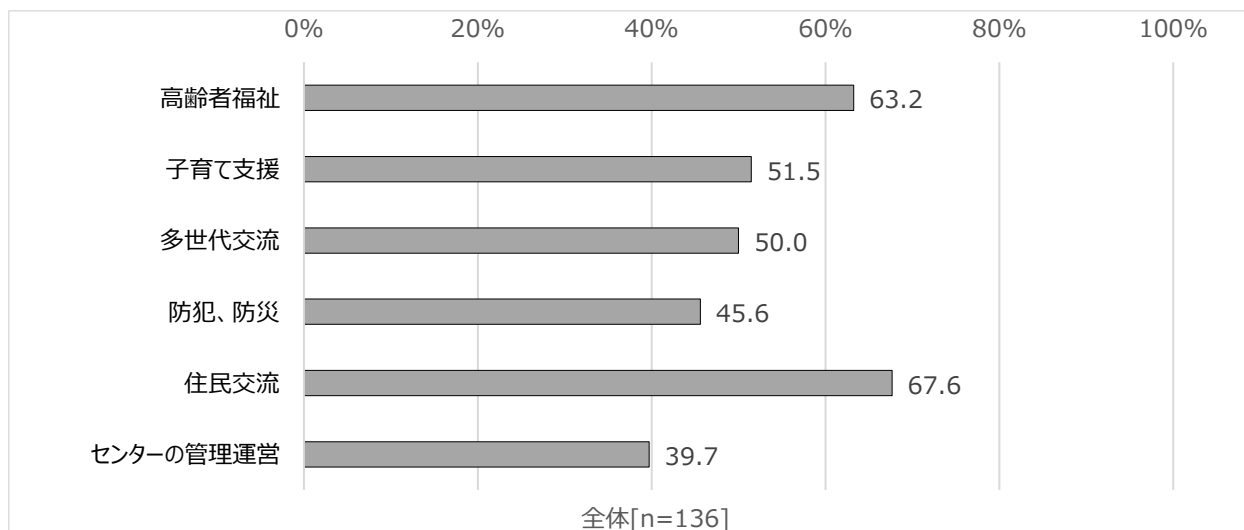
図表 8 直近 3 年間で縮小または中止した具体的な活動内容

質問に対して有効な回答がなかった

⑨活動で重視している分野（問 21）

活動で重視している分野は、「住民交流」が67.6%と最も多く、次いで「高齢者福祉」が63.2%、「子育て支援」が51.5%などとなっている。

図表 9 活動で重視している分野〔複数回答〕



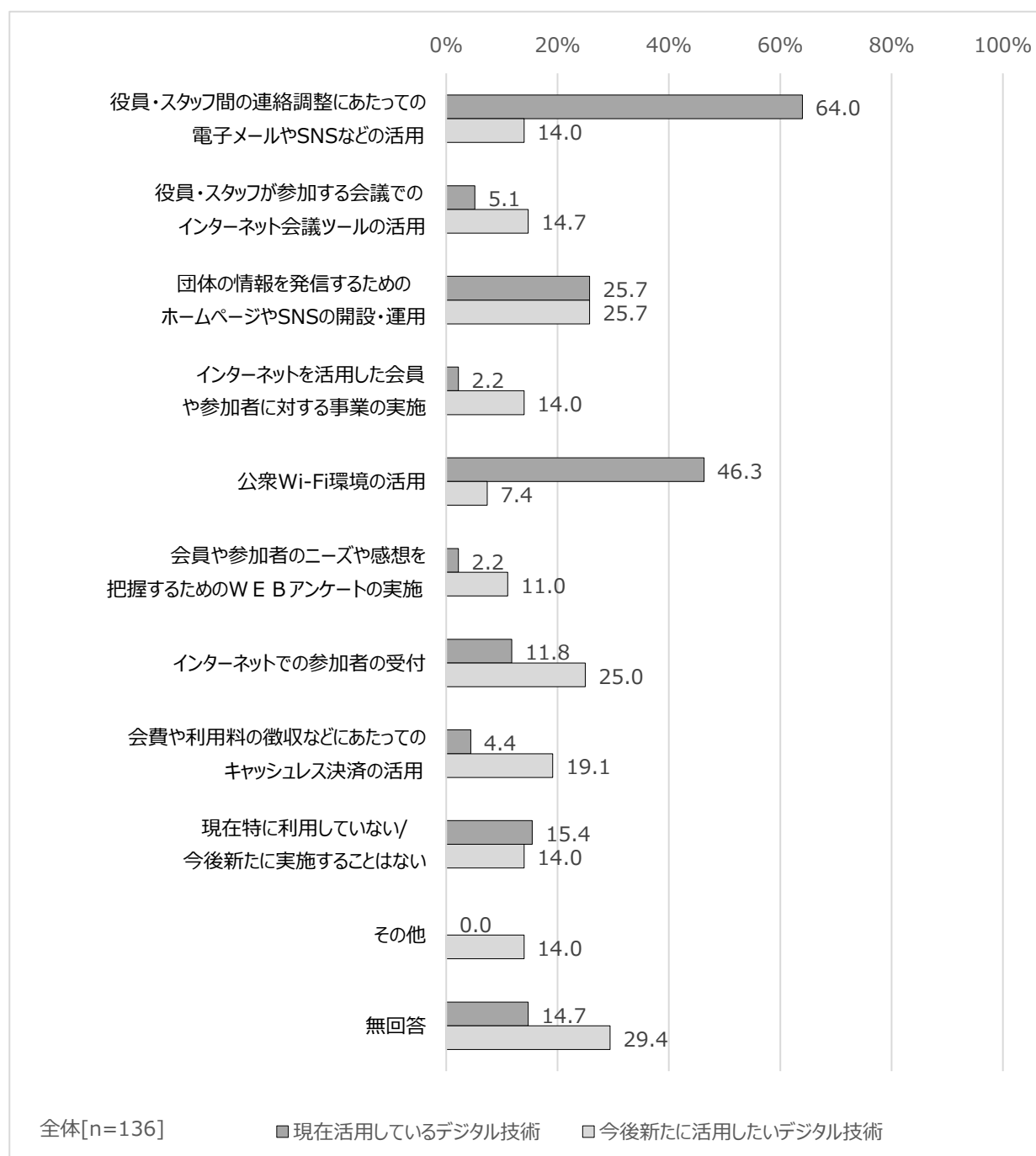
(3) デジタル技術の活用

① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問 8）

現在活用しているデジタル技術は、「役員・スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNSなどの活用」が64.0%と最も多く、次いで「公衆Wi-Fi環境の活用」が46.3%、「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が25.7%などとなっている。

今後新たに活用したいデジタル技術は、「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が25.7%と最も多く、次いで「インターネットでの参加者の受付」が25.0%、「会費や利用料の徴収などにあたってのキャッシュレス決済の活用」が19.1%などとなっている。

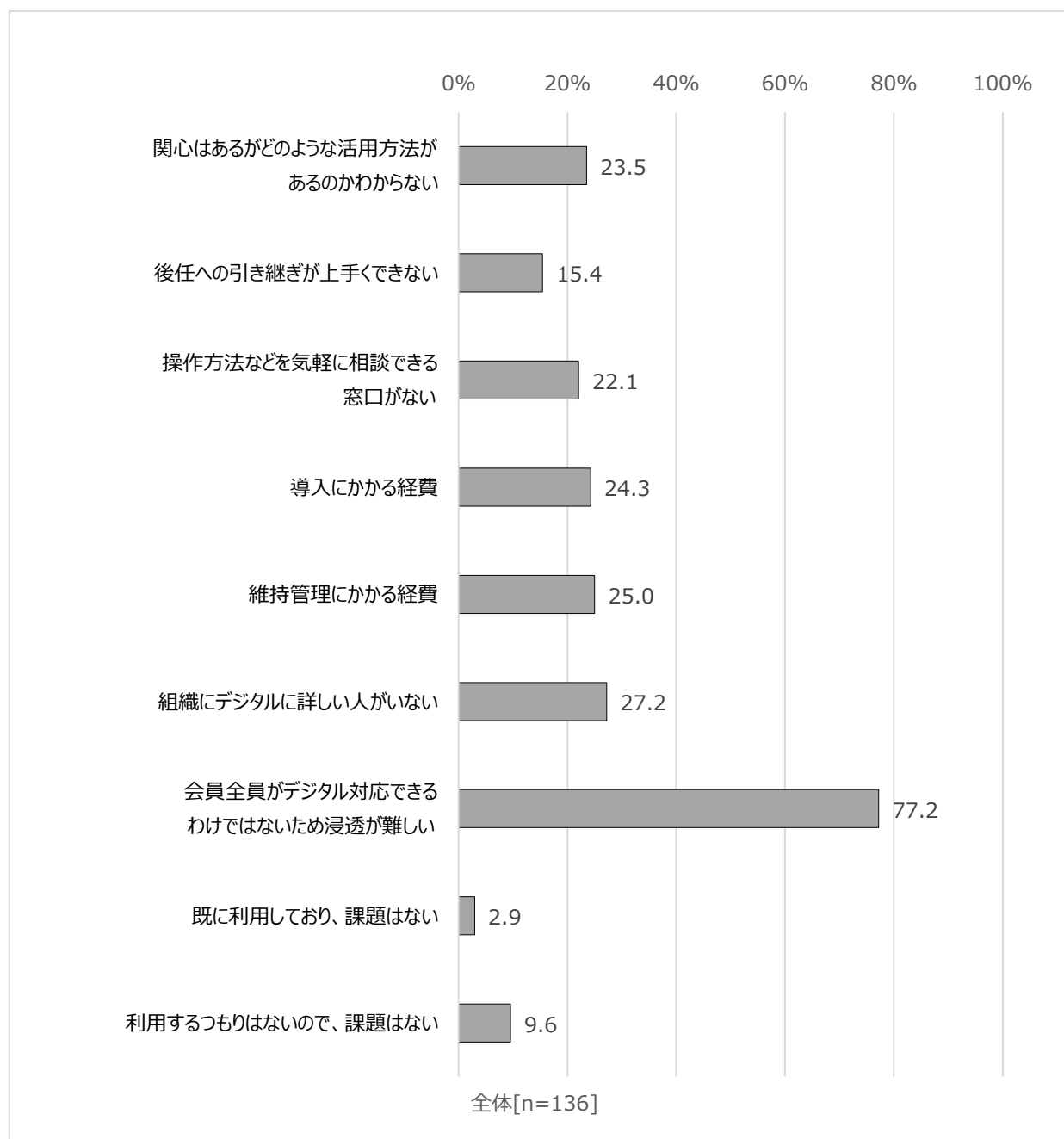
図表 10 デジタル技術の活用状況と今後の活用意向〔複数回答〕



②デジタル技術の導入にあたっての課題（問9）

デジタル技術の導入にあたっての課題は「会員全員がデジタル対応できるわけではないため浸透が難しい」が77.2%と最も多く、次いで「組織にデジタルに詳しい人がいない」が27.2%、「維持管理にかかる経費」が25.0%などとなっている。

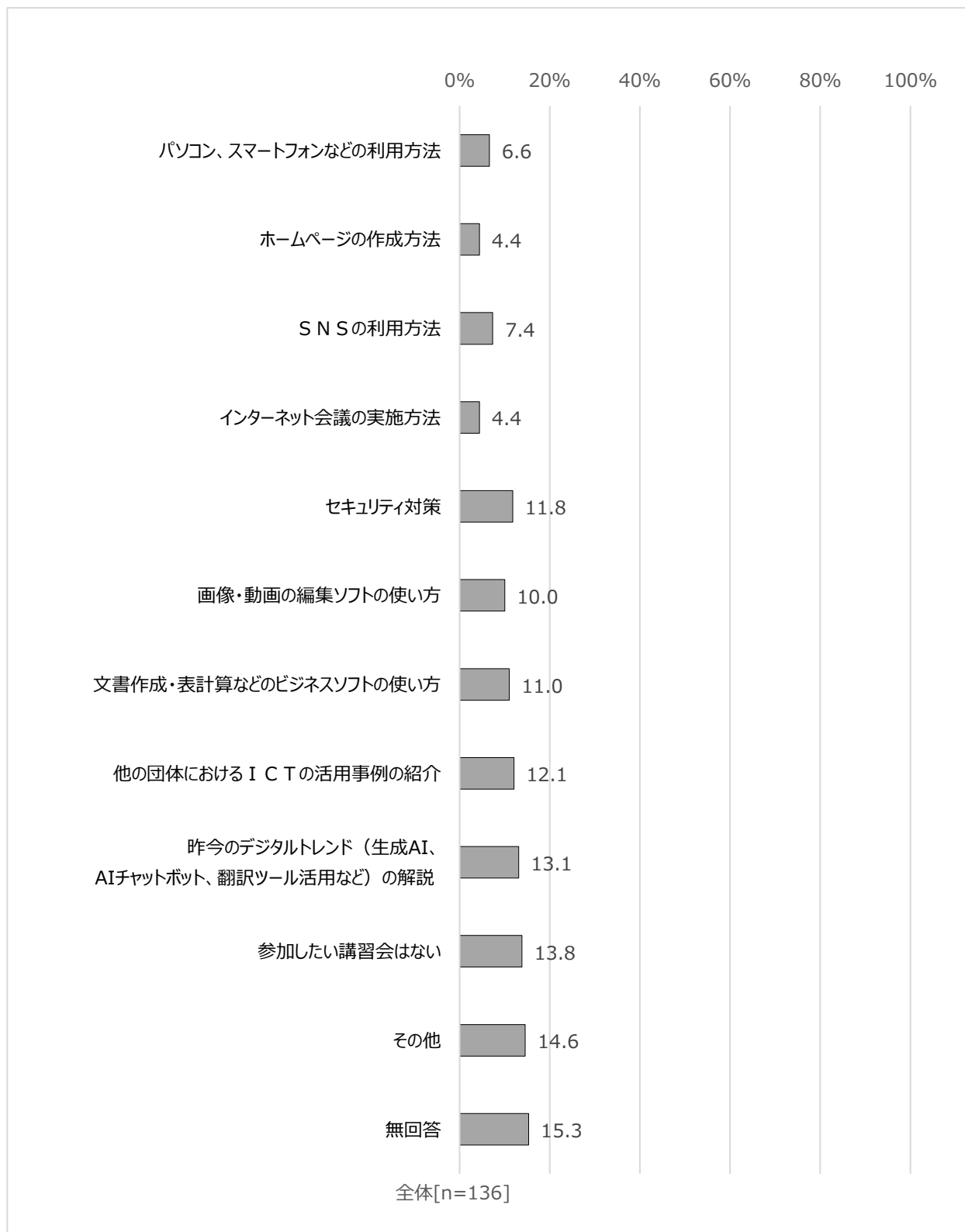
図表 11 デジタル技術の導入にあたっての課題〔複数回答〕



③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問 10）

デジタル技術活用のために参加したい講習会は、「その他」14.6%と最も多く、次いで「参加したい講習会はない」が13.8%、「昨今のデジタルトレンド（生成AI、AIチャットボット、翻訳ツール活用など）の解説」が13.1%などとなっている。

図表 12 デジタル技術活用のために参加したい講習会〔複数回答〕



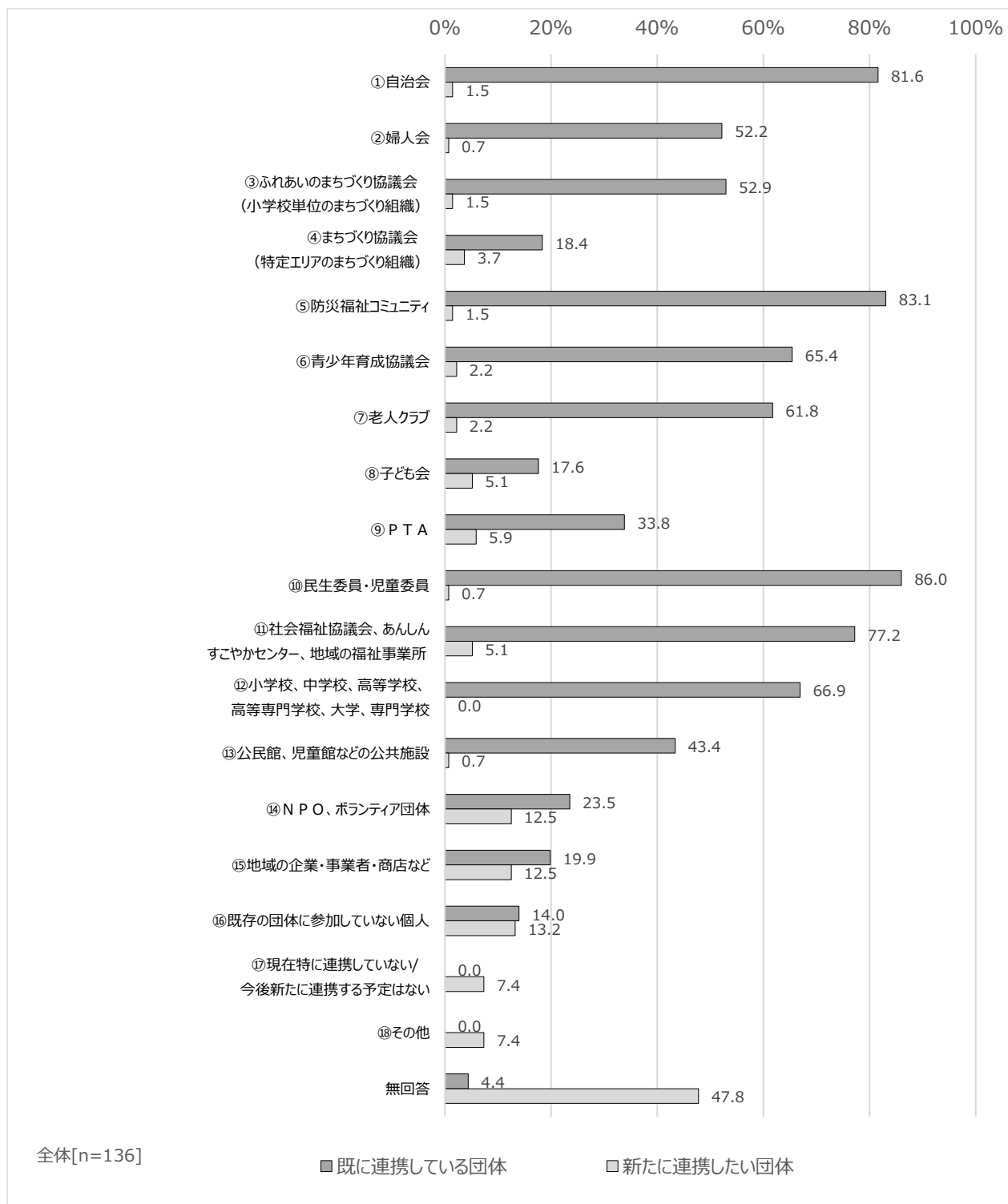
(4) 他団体との連携

①他団体との連携の状況（問 11）

既に連携している団体は、「⑩民生委員・児童委員」が86.0%と最も多く、次いで「⑤防災福祉コミュニティ」が83.1%、「①自治会」81.6%などとなっている。

新たに連携したい団体は、「⑩既存の団体に参加していない個人」が13.4%と最も多くなっている。

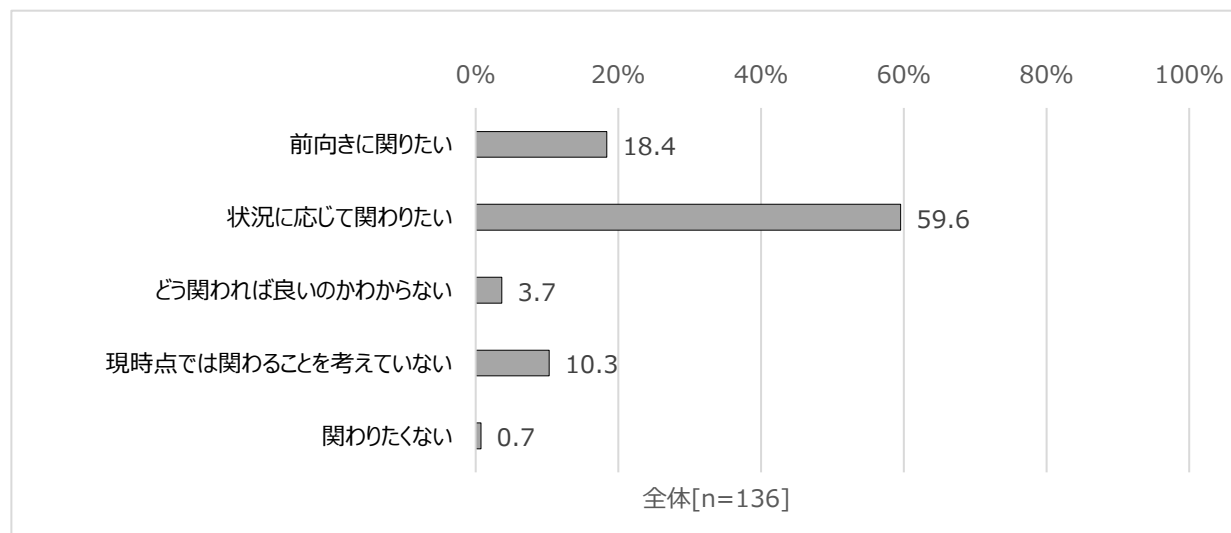
図表 13 既に連携している団体と新たに連携したい団体〔複数回答〕



②地域内外の連携に対する考え（問 12）

地域内外の連携に対する考えは、「状況に応じて関わりたい」が59.6%と最も多く、次いで「前向きに関りたい」が18.4%、「現時点では関わることを考えていない」が10.3%などとなっている。

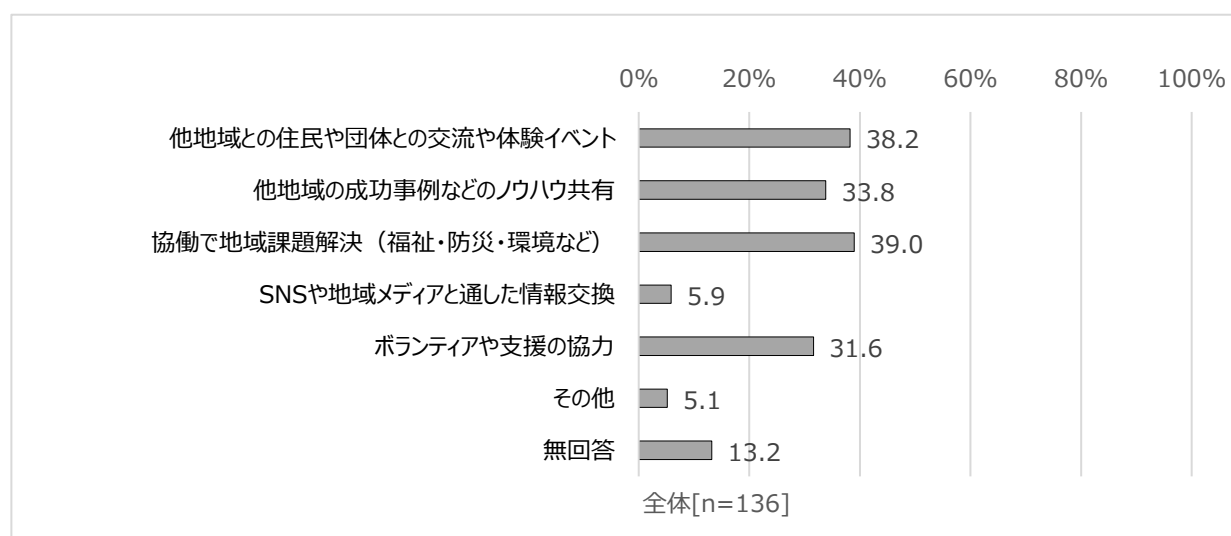
図表 14 地域内外の連携に対する考え



③連携に対する関心（問 13）

連携に対する関心は、「協働で地域課題解決（福祉・防災・環境など）」が39.0%と最も多く、次いで「他地域との住民や団体との交流や体験イベント」が38.2%、「他地域の成功事例などのノウハウ共有」が33.8%などとなっている。

図表 15 連携についての関心〔複数回答〕



④他団体と連携した取組事例（問 14）

他団体と連携した取組として、次のような取組事例があげられた。

図表 16 他団体と連携した取組事例

連携先	連携内容（例）
自治会	夏祭り・秋祭り・もちつき大会などの地域行事の共催・担い手確保
	各地域団体代表による月1回の情報・意見交換会議の開催
	防犯・防災・公園清掃などの地域安全活動
	介護施設と合同での流しそうめん・夏まつりの実施
	避難訓練・夜間パトロールの共同実施
婦人会	もちつき大会・防災訓練の共同開催（人手・スキル提供）
	ふれあい喫茶の運営（接遇・健康観察）
	子どもの見守り・駅前清掃への参加
	夏祭り・秋祭りなどの行事参加・公園・地域清掃の実施
	プランター花壇の設置
	エコタウン活動への参加
他のふれまち協	フードロス事業での連携
	年4回の合同会議による情報量増加・共有化
	年1回の合同防災訓練（幹事持ち回り・大規模化）
	夏祭り・秋祭りへの相互出店協力
	防災防犯の機材融通・情報交換・人材確保
	小学校授業支援（昔遊び・昔のくらし体験）の共同実施
	活動状況の情報共有・参考とする取り組み
	ふれまち連絡会議・合同防災訓練
まちづくり協議会	各イベントの共催・出店
	公園の清掃・管理、季節行事（運動会・盆踊り・お月見など）の実施
	氏神様行事への参加・地域のルーズなつながりの形成
	防災・防犯および市住跡地活用・川海遊び等への取り組み
	地域交流行事の共催
	講演会の共同開催
防災福祉コミュニ ティ	地域・合同防災訓練の計画・実施
	AED講習・1.17震災を忘れないイベントへの参加・避難訓練・連帯感の蓄積
	リーダー研修・合同訓練・研修会（年3回）の実施
	地域夏祭りへの参加
	防災パトロールの実施
青少年育成協議 会	地域のコープ店イベントへの参画
	幼児イベント・クリスマスイベントの共催
	軽食・出店の実施
子ども会	夏祭り・地域行事への参加
	幼児イベント・クリスマスイベントの共催
	軽食・出店の実施
PTA	夏祭り・地域行事への参加
	もちつき大会・防災訓練（人手・スキル提供）
	夏まつり・あいまつりイベントの共催・ゲーム大会などの共同開催
	ラジオ体操の共同運営
	見守り活動への地域住民協力拡大（ポスター掲示等）

民生・児童委員	老人給食・高齢者給食会の実施
	高齢者・子育てサロンの運営
	対象者への食事会の開催・こども食堂・学習支援の共同運営
	催事での合同開催
	見守り活動の担い手
	行事の担い手
社協・福祉施設等	ふれあい喫茶での相談事業・健康情報提供
	認知症予防教室
	ふれあい給食時のゲーム・健康体操の提供
	ボランティアの紹介・派遣
	昔遊び交流・防災訓練・給食運搬（支援学校との連携）
	お祭り出店・ふれまちブース運営（福祉法人とのパイプ役）
	災害時の高齢者施設対応を考える取り組み
	高齢者対策・見守り支援
学校	昔遊び体験・昔のくらし体験（1～3年生）の授業支援
	防災学習・地域探検・公園清掃（学年別）の授業連携
	トライやるウィーク（中学生）の受け入れ
	防災訓練での校庭借用・音楽隊出演
	田植え・稲刈り体験への幼稚園・保育園・小学校の参加
	大学生による防災情報誌の年4回発行・防災訓練参加
	大学の防災教室へのジュニアチーム参加
	スプリングフェスタ・グラウンドゴルフの実施
	クリスマス会・夏祭り参加（幼稚園・保育園）
公民館・児童館等	ふれあい喫茶への子ども参加・手伝い
	夏まつり・子ども食堂の共催・公民館フェスティバル等への参加
	ハロウィン・クリスマス会・餅つき大会の共催・
	学校行事への共同支援
	小学生向け工作教室・eスポーツ体験会の会場提供
	地域交流・ふれあいキッチンの実施
	公民館フェスティバル等への参加
	健康教室での防災訓練の実施
NPO等	福祉避難訓練・地域防災行事への参加
	子ども給食・地域交流イベントの共催
	公園清掃・とんどの共催（里山育成会）
	おうちの模型づくりワークショップ・住まいよろず相談（建築学会）
	ボランティアトライアル講座の共同開催
事業者・商店等	桃・梨・柿の予約販売（高齢者買い物支援・地産地消）
	毎月の野菜市の開催（農家との提携）
	夏祭りでの輪投げゲーム・世代間交流の実施・夏祭りの共催
	コープ店閉店阻止のための買い支え運動
	消火訓練・防災訓練での指導（消防署・消防団）
	健康講座・講演会の開催（病院との連携）
	危険木伐採・防犯カメラ設置への協力（神戸市建設）
	暴走族騒音対策（警察との連携）
	公園改修工事（垂水建設事務所）

⑤ 他団体と連携して実現したいこと（アイディア）（問 15）

他団体と今後連携して実現したいこと（アイディア）として、次のような回答があげられた。

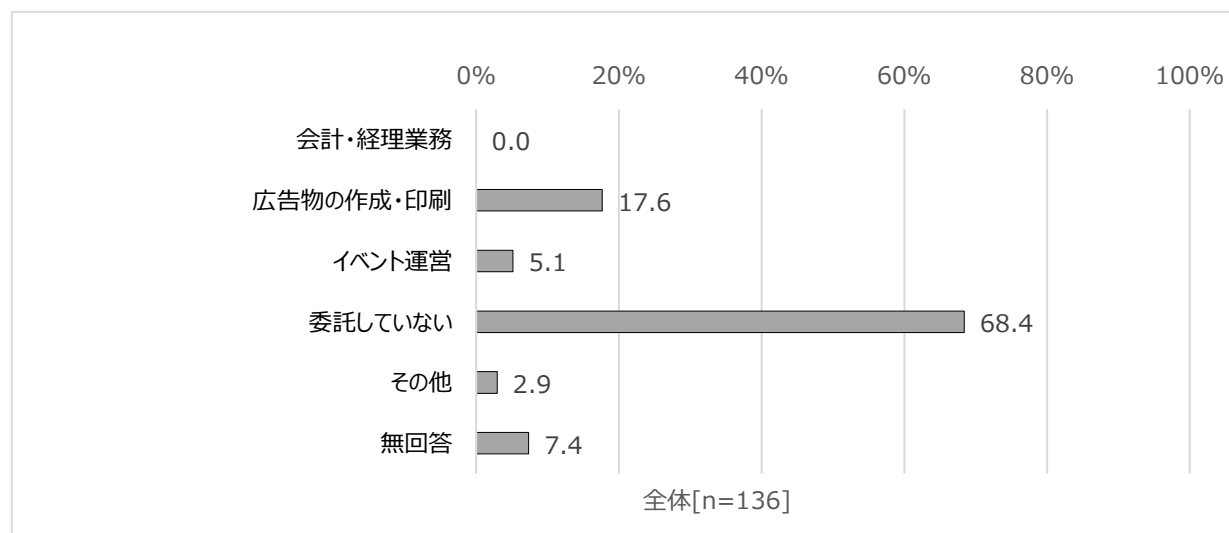
図表 17 他団体と連携して実現したいこと（アイディア）

カテゴリ	連携内容（例）
自治会	防災・防犯の強化（合同訓練／地域全体対応）
	自治会対抗イベント（運動会など）
	地域全体の連携強化（総合防災・防犯）
婦人会	子ども食堂の運営
	地域イベントの共同実施
他のふれまち協	情報交換・ノウハウ共有
	行事交流（相互参加）
	広域連携（役割分担・共同広報）
	防災・防犯の共同対応
まちづくり協議会	新規立ち上げに向けたノウハウ取得
	地域運営の情報共有
防災福祉コミュニティ	避難所開設訓練
	災害時の地域連携体制構築
青少年育成協議会	若者の地域参加促進
	イベント参画・ボランティア育成
老人クラブ	フレイル予防（体操など）
	終活支援
	健康講座
子ども会	子ども向けイベント（祭り・交流会）・子育て世帯向け企画
PTA	学校と連携した地域活動
	子どもの居場所づくり
民生・児童委員	高齢者見守り
	生活支援（ごみ出し等）
	健康支援（講座）
社協・福祉施設等	高齢者見守り・福祉支援
	家族支援
	地域福祉センター活用
学校	防災訓練への参加
	地域行事（祭り・神輿）への参加
	若年層との交流
	ボランティア参加
公民館・児童館等	防災活動の拡充
	子どもの居場所づくり
	地域交流拠点としての活用
NPO等	事業運営支援
	ボランティア連携
事業者・商店等	地域活性化
	買い物支援（高齢者・認知症）
	地域PR・交流
	イベント協力
	新規コミュニティ組織の構築

⑥外部に委託している業務（問 16）

外部に委託している業務は「委託していない」が68.4%と最も多く、次いで「広告物の作成・印刷」が17.6%、「イベント運営」が5.1%などとなっている。

図表 18 外部に委託している業務〔複数回答〕



⑦外部に委託している業務の具体的な内容（問 16）

外部に委託している業務の具体的な内容は次のような回答が得られました。

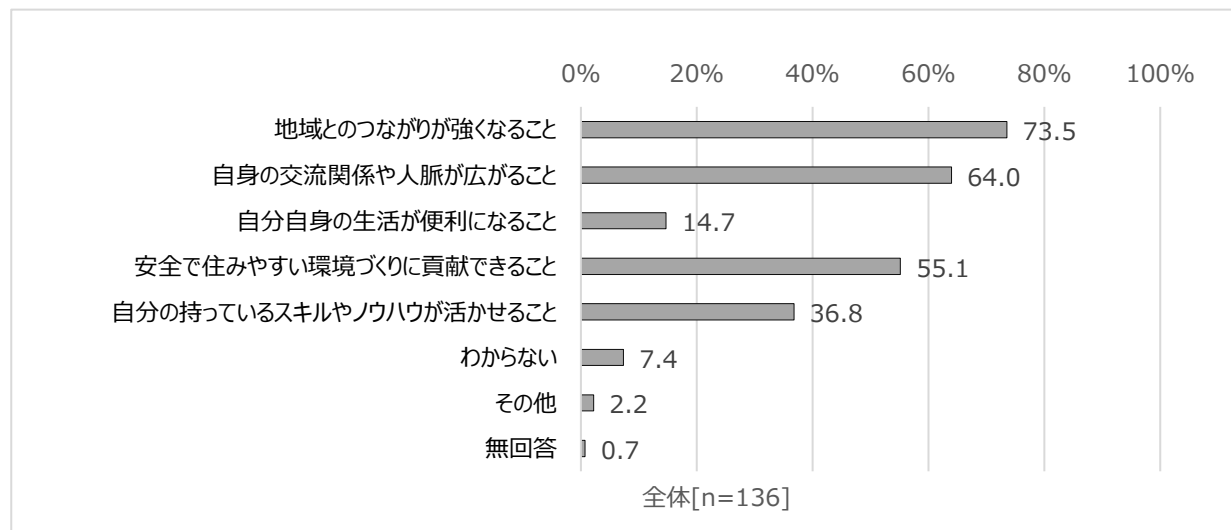
図表 19 外部委託業務の具体的な内容

外部委託の具体的な内容	
広報誌の印刷・構成	ホームページ管理運営
行事ポスターの印刷	高齢者のためのスマホ教室
月1回のトイレとその周辺の清掃	学生さんによるスマホ相談
H Pのサーバーレンタル	文化作品展のパネル設置、撤収
ホームページ管理運営	ふれまち発行の回覧板の印刷
学生さんによるスマホ相談	子育てサロンの講師
ふれまち発行の回覧板の印刷	記念誌作成
子育てサロンの講師	センター内の植木カット
記念誌作成	防犯カメラ点検
文化作品展のパネル設置、撤収	ワックスがけ
エコ活動	—

⑧地域住民が活動に参加するメリット（問 17）

地域住民が活動に参加するメリットは「地域とのつながりが強くなること」が73.5%と最も多く、次いで「自身の交流関係や人脈が広がること」が64.0%、「安全で住みやすい環境づくりに貢献できること」が55.1%などとなっている。

図表 20 地域住民が活動に参加するメリット〔複数回答〕

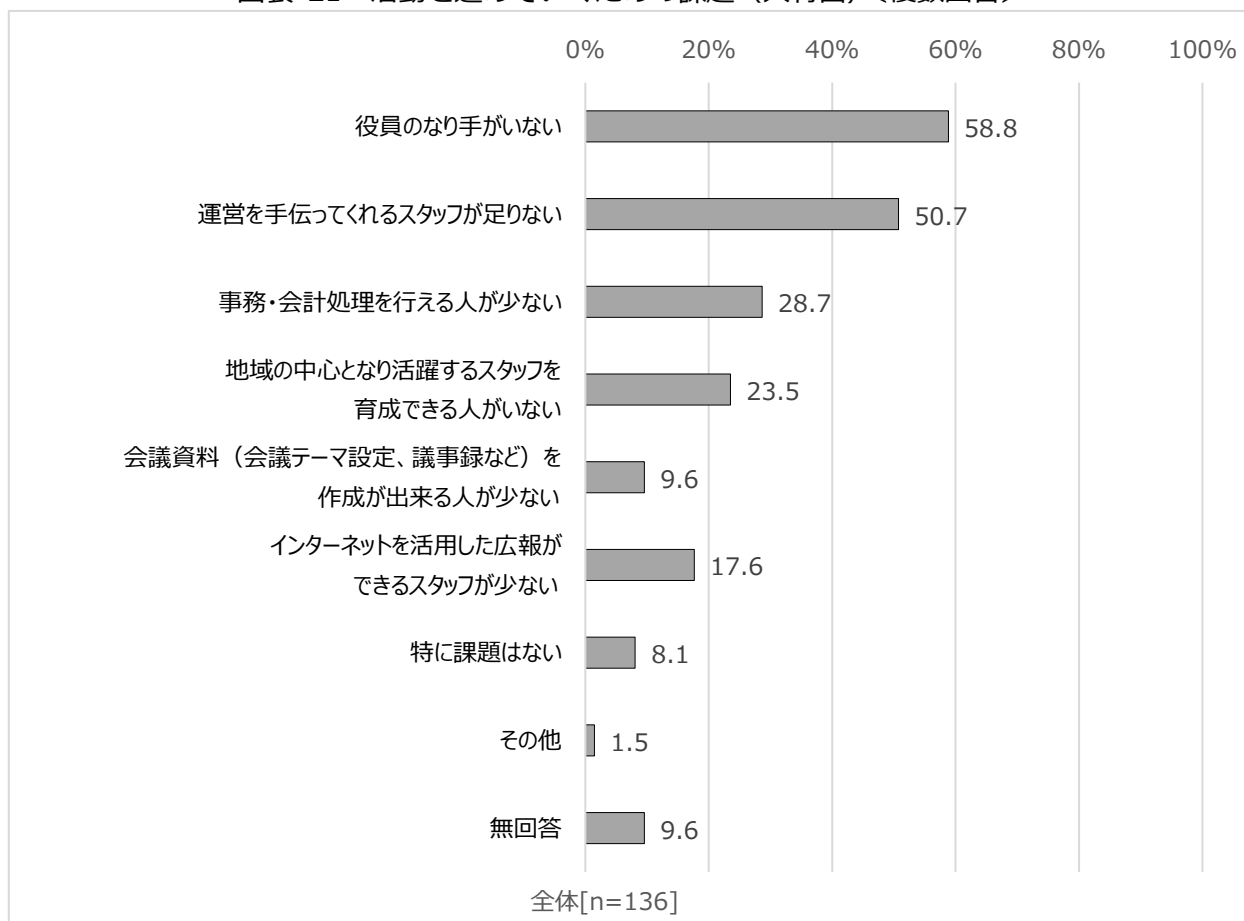


(5) 活動を進めていくための課題

① 活動を進めていくための課題（人材面）（問 18①）

活動を進めていくための課題（人材面）は、「役員のなり手がいない」が58.8%と最も多く、次いで運営を手伝ってくれるスタッフが足りない」が50.7%、「事務・会計処理を行える人が少ない」が28.7%などとなっている。

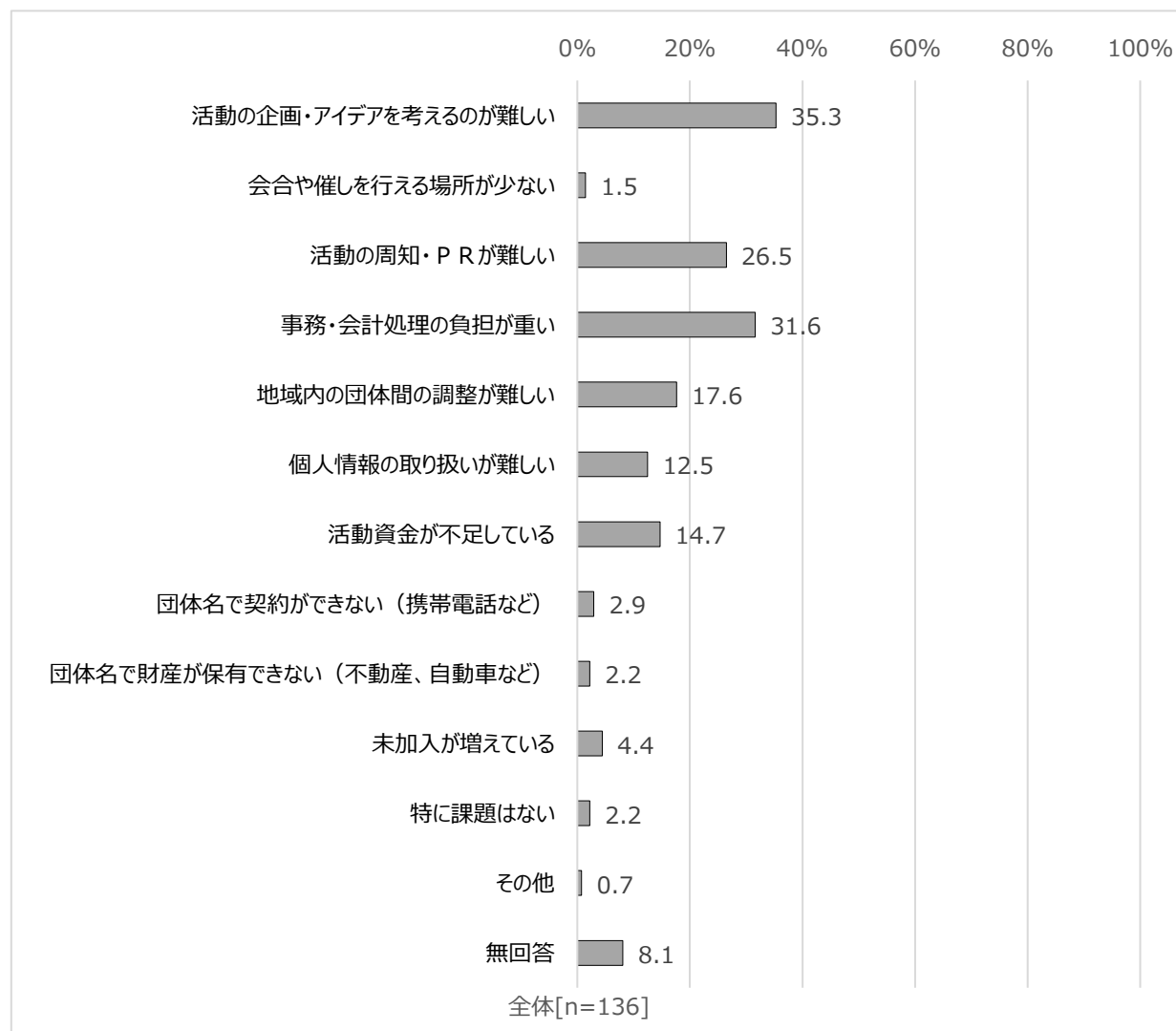
図表 21 活動を進めていくための課題（人材面）〔複数回答〕



② 活動を進めていくための課題(運営面) (問 18②)

活動を進めていくための課題(運営面)は、「活動の企画・アイデアを考えるのが難しい」が35.3%と最も多く、次いで「事務・会計処理の負担が重い」が31.6%、「活動の周知・P Rが難しい」が26.5%などとなっている。

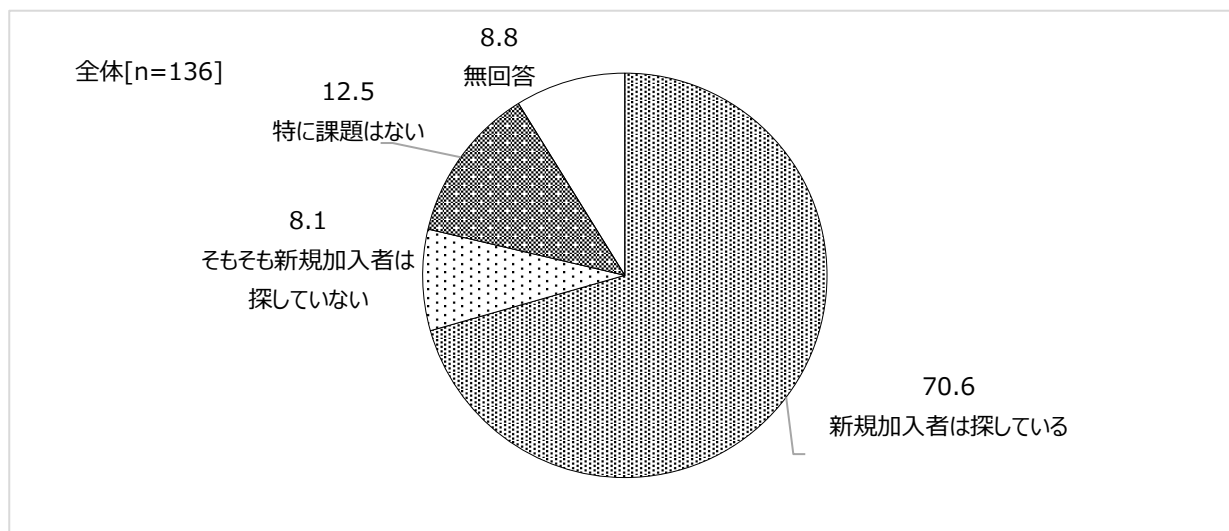
図表 22 活動を進めていくための課題(運営面)〔複数回答〕



③ 担い手不足面での課題（問 18③）

担い手不足面での課題は、「新規加入者は探している」70.6%と最も多くなっている。

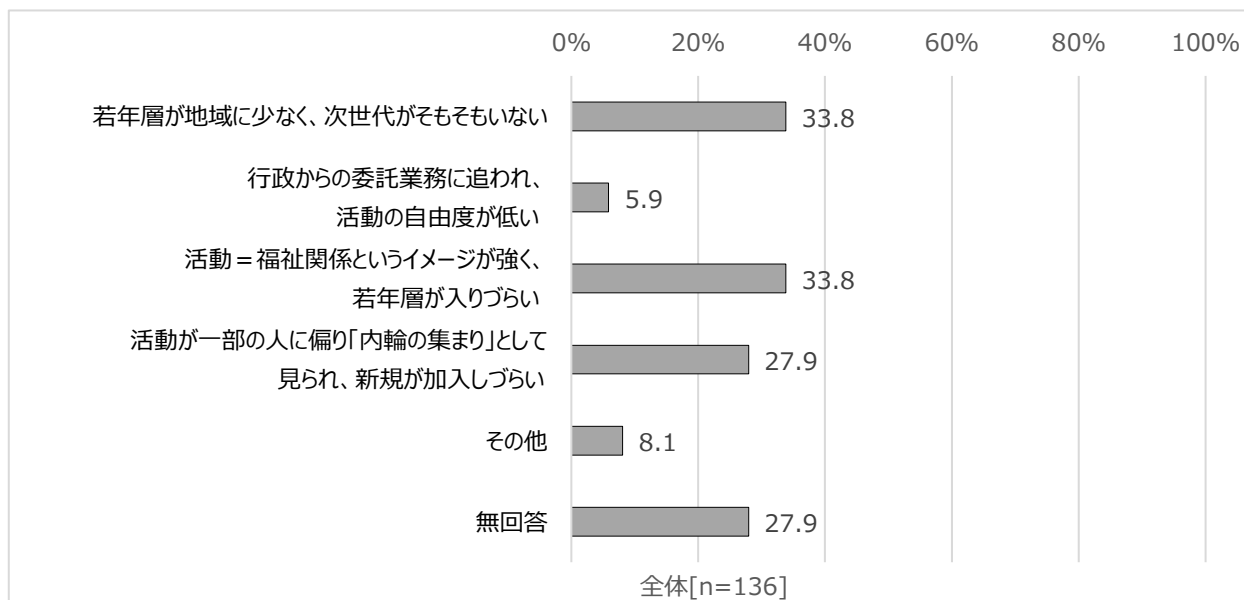
図表 23 担い手不足面での課題



（ア）新規加入者が見つからない理由

活動への住民の参加状況の課題は、「若年層が地域に少なく、次世代がそもそもいない」と「活動＝福祉関係というイメージが強く、若年層が入りづらい」が33.8%と最も多く、次いで「活動が一部のみに偏り「内輪の集まり」として見られ、新規が加入しづらい」が27.9%などとなっている。

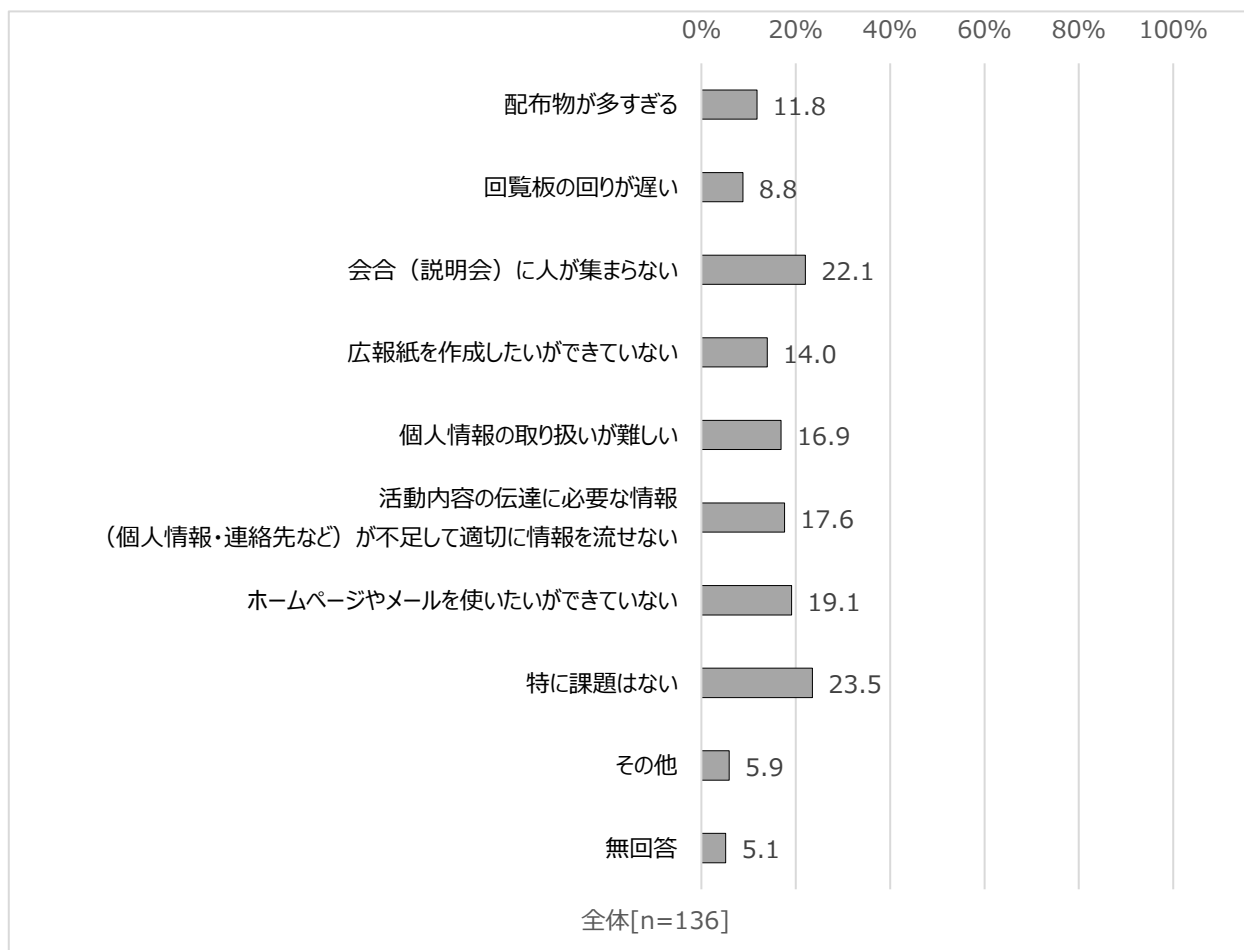
図表 24 新規加入者が見つからない理由〔複数回答〕



④ 地域住民への情報伝達における課題（問 18④）

地域住民への情報伝達における課題は、「特に課題はない」が23.5%と最も多く、次いで「会合（説明会）に人が集まらない」が22.1%、「ホームページやメールを使いたいができない」が19.1%などとなっている。

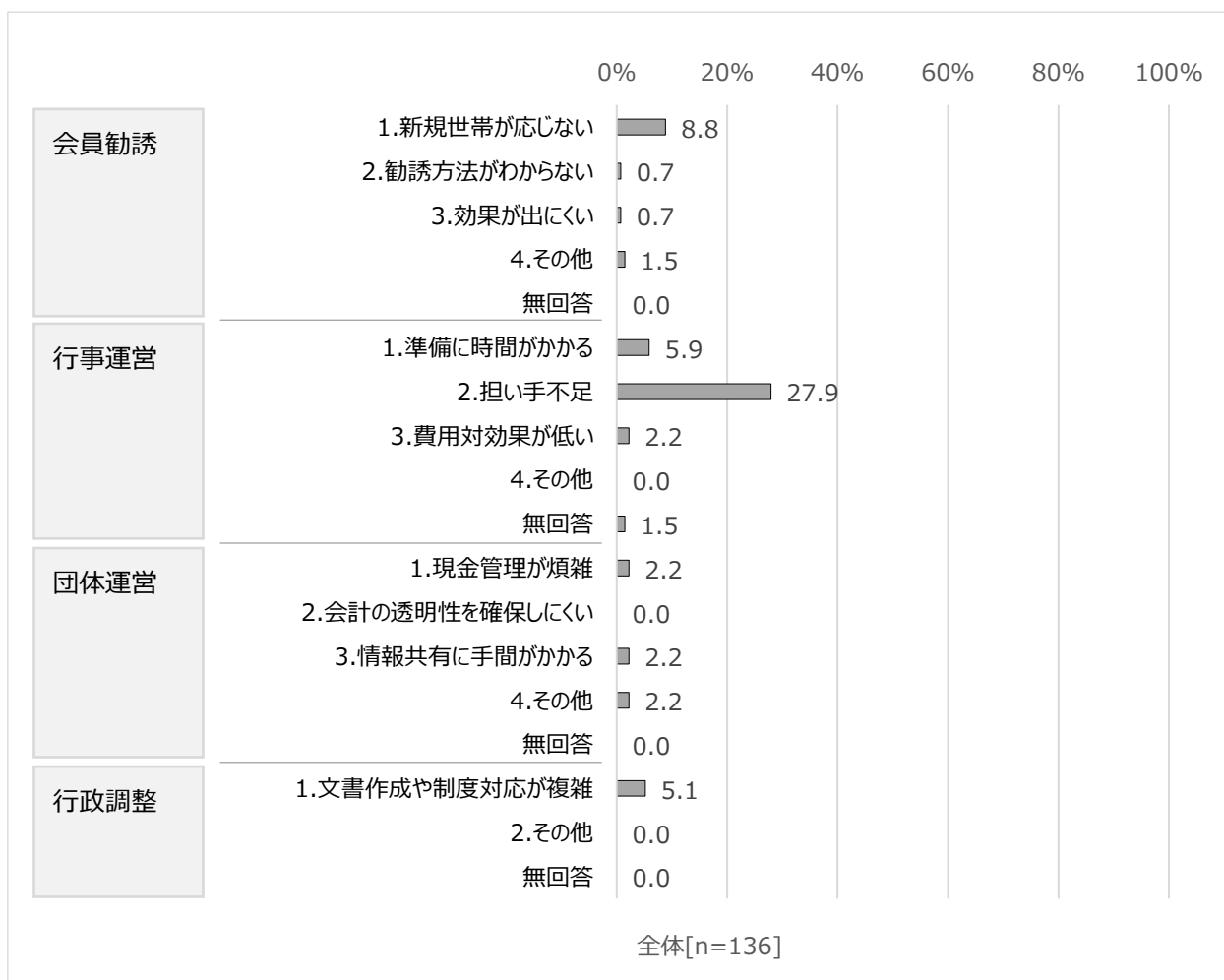
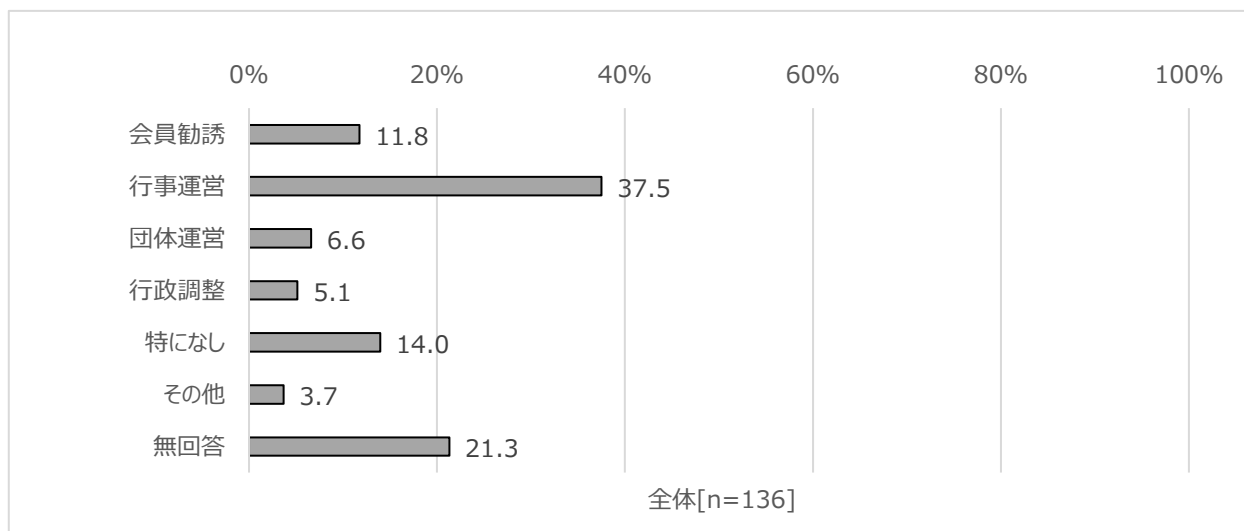
図表 25 地域住民への情報伝達における課題〔複数回答〕



⑤役員や中心メンバーの業務負担（問 19）

役員や中心メンバーの業務負担は、「行事運営2.担い手不足」が27.9%と最も多く、次いで「会員勧誘1.新規世帯が応じない」8.8%。「行事運営1.準備に時間がかかる」5.9%などとなっている。

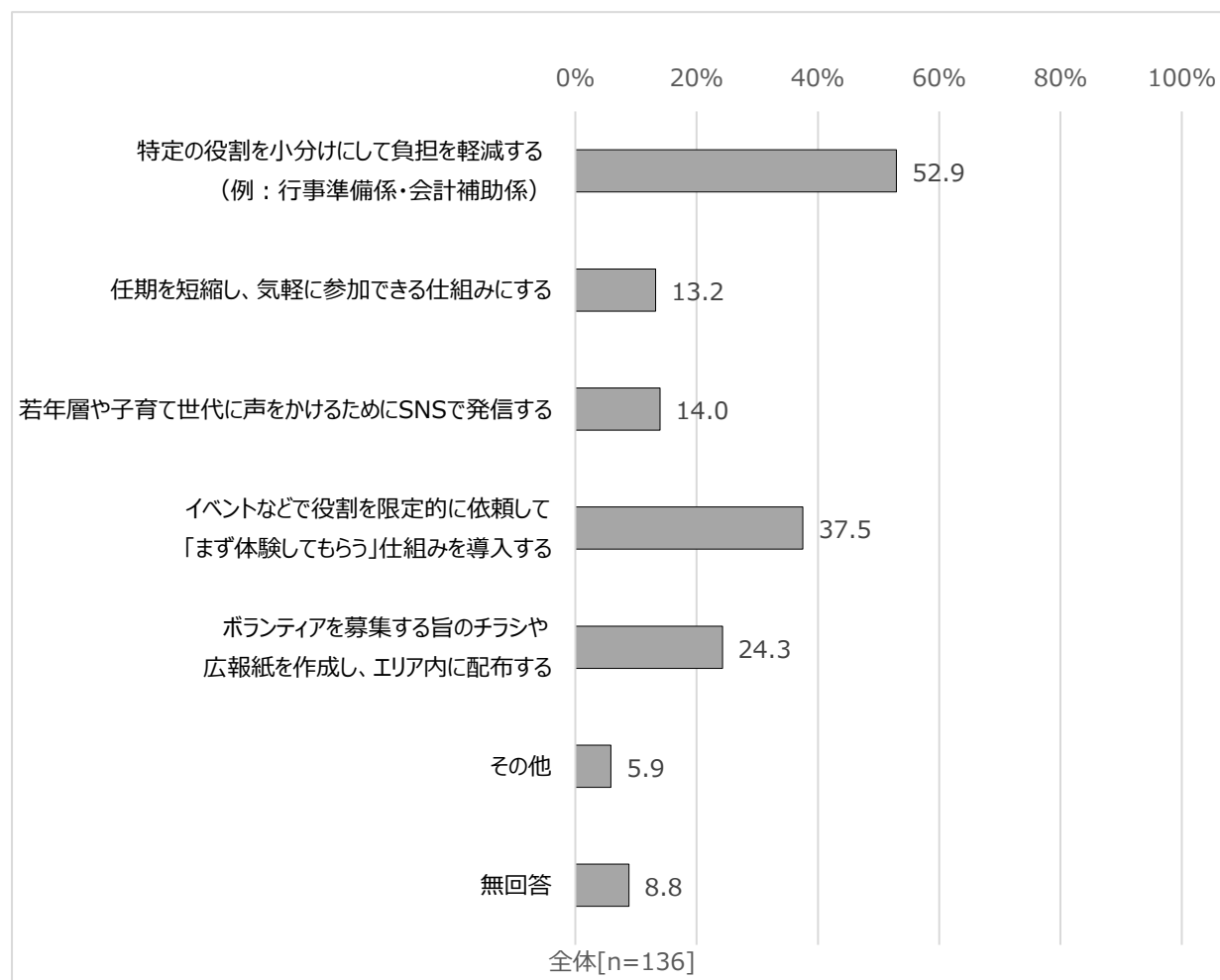
図表 26 役員や中心メンバーの業務負担



⑥役員・スタッフの関与者を増やすためアイデア（問 20）

役員・スタッフの関与者を増やすためアイデアは、「特定の役割を小分けにして負担を軽減する」が52.9%と最も多く、次いで「イベントなどで役割を限定的に依頼して「まず体験してもらう」仕組みを導入する」が37.5%、「ボランティアを募集する旨のチラシや広報紙を作成し、エリア内に配布する」が24.3%などとなっている。

図表 27 役員・スタッフの関与者を増やすためアイデア〔複数回答〕

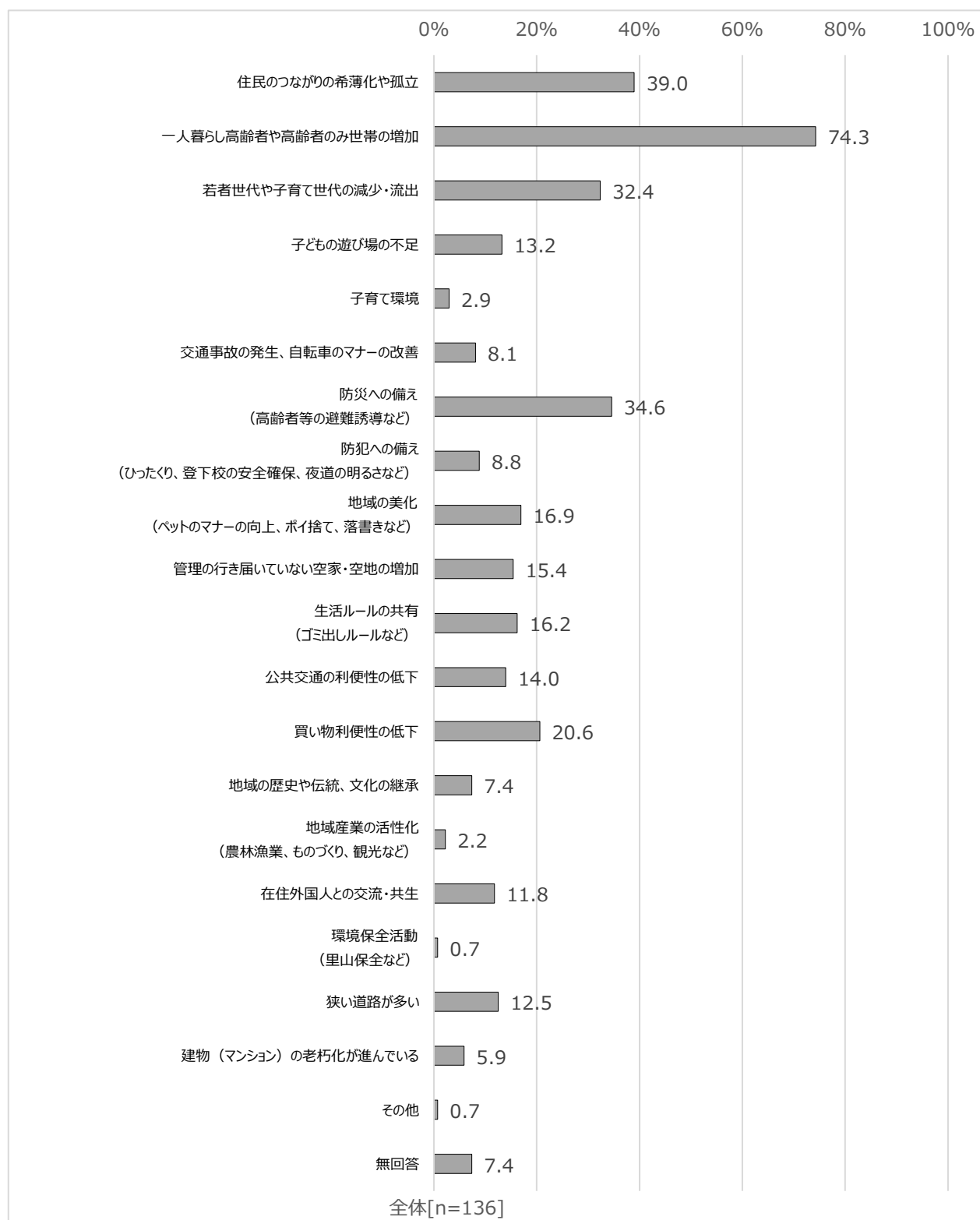


(6) 団体が活動している地域の状況等

①活動している地域の課題（問 23）

活動している地域の課題は、「一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加」が74.3%と最も多く、次いで「住民のつながりの希薄化や孤立」が39.0%、「防災への備え（高齢者等の避難誘導など）」が34.6%などとなっている。

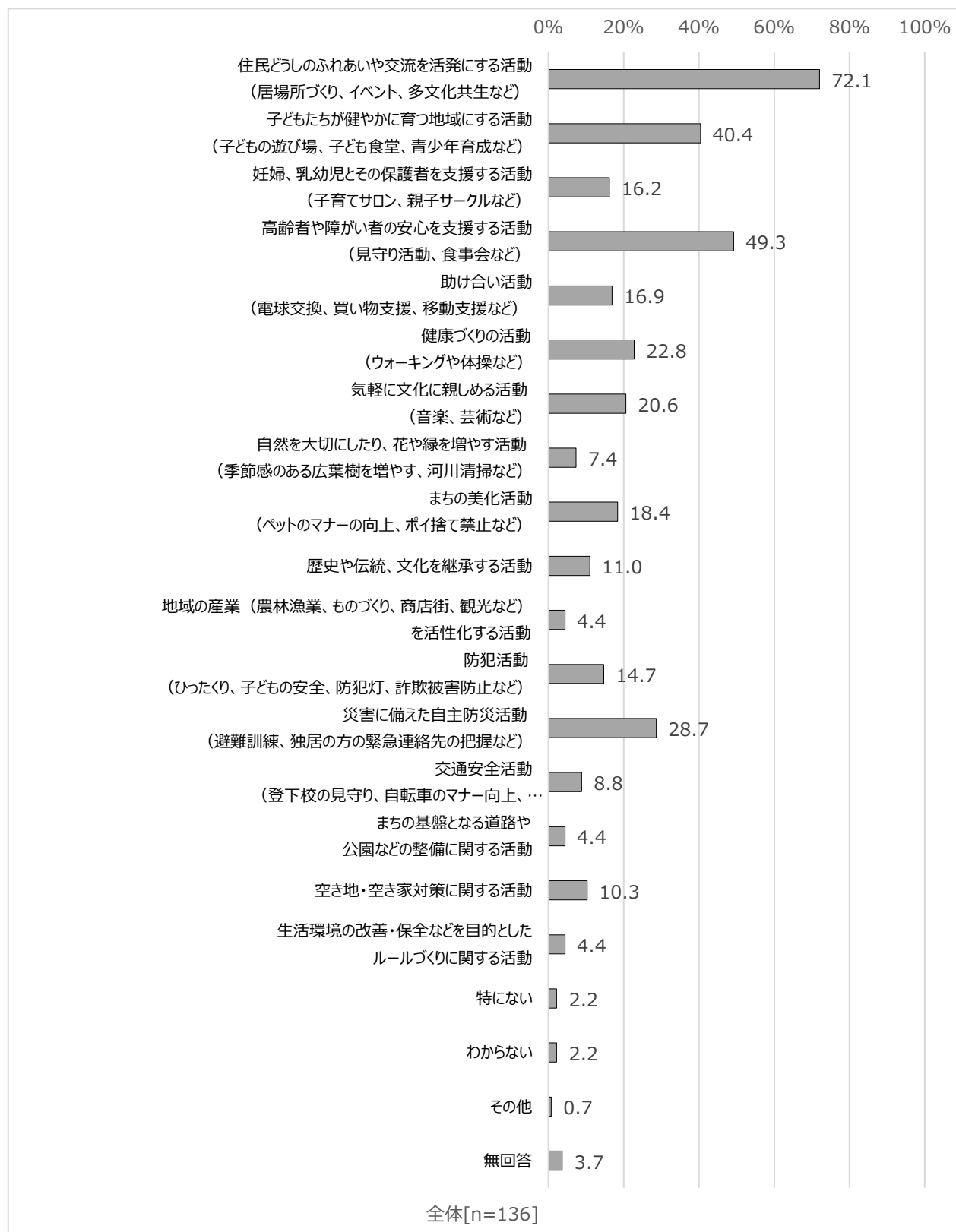
図表 28 活動している地域の課題〔複数回答〕



②課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問 24）

課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なことは、「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動（居場所づくり、イベント、多文化共生など）」が72.1%と最も多く、次いで「高齢者や障がい者の安心を支援する活動（見守り活動、食事会など）」が49.3%などとなっている。

図表 29 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと〔複数回答〕

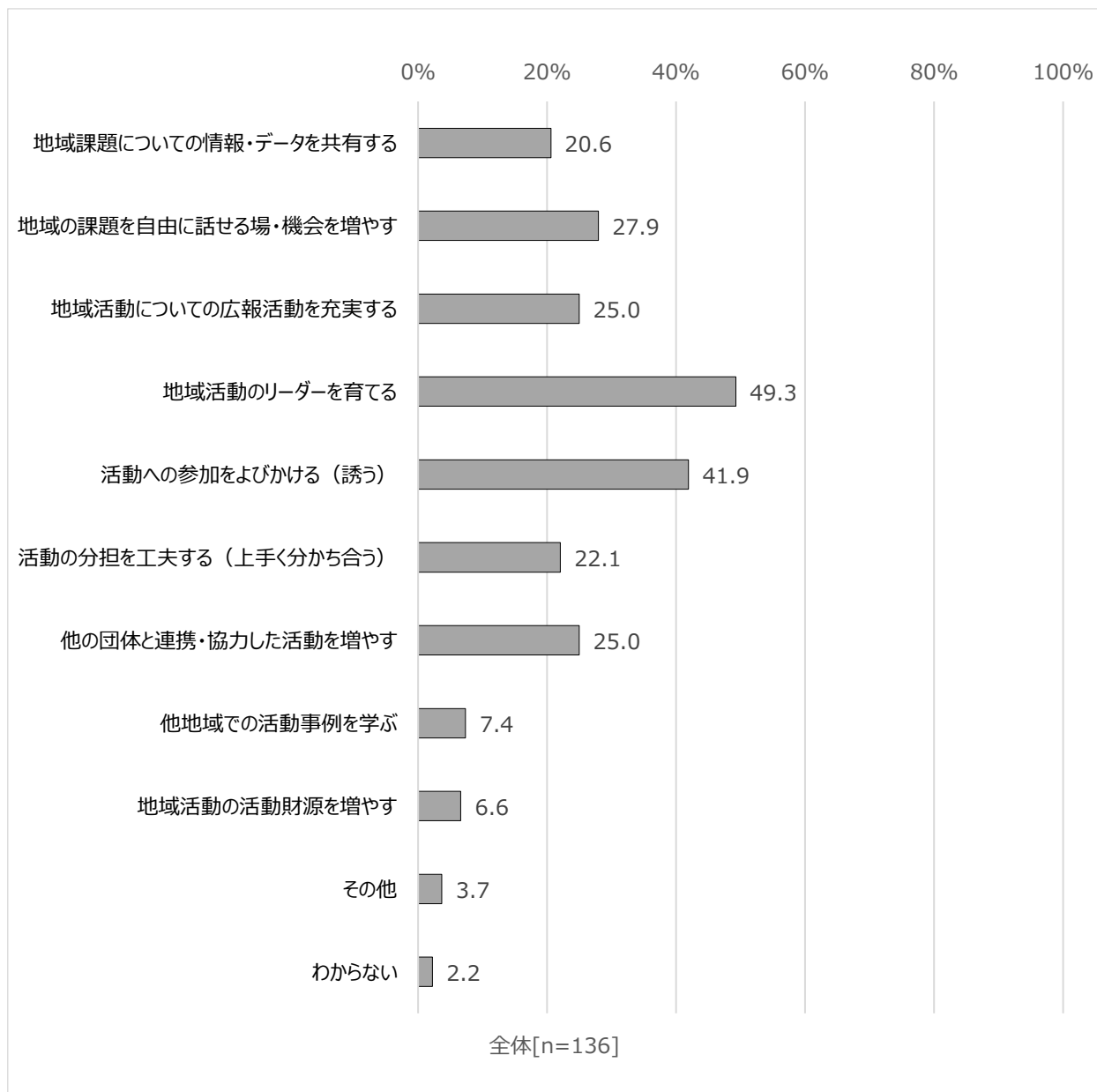


(7) 今後の活動に向けて

①活動を活発にしていくために必要なこと（問 25）

活動を活発にしていくために必要なことは、「地域活動のリーダーを育てる」が49.3%と最も多く、次いで「活動への参加をよびかける（誘う）」が41.9%、「地域の課題を自由に話せる場・機会を増やす」が27.9%などとなっている。

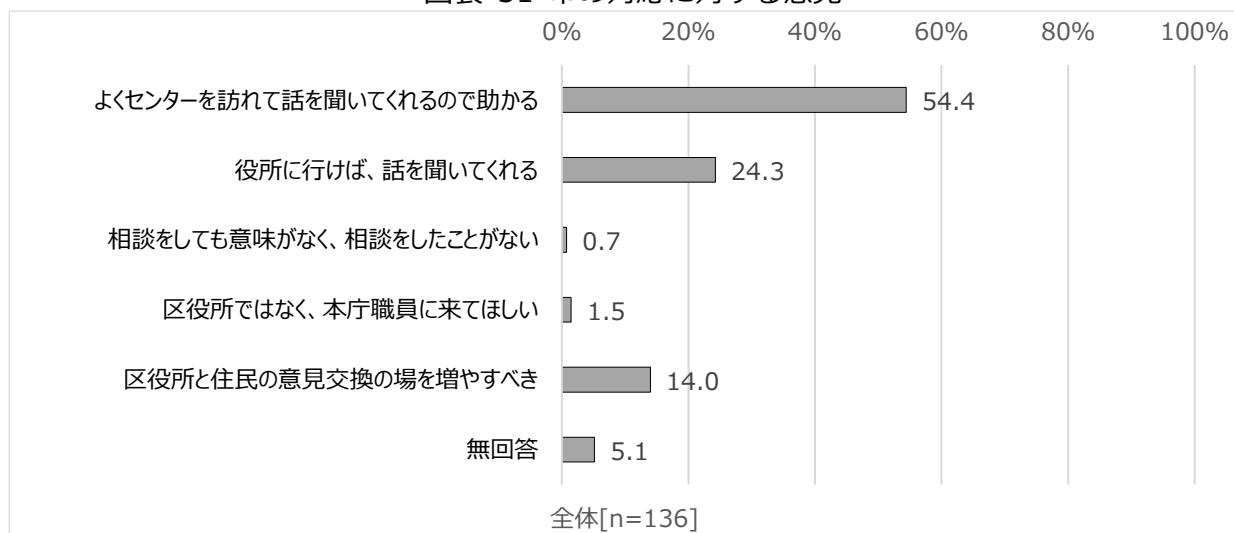
図表 30 活動を活発にしていくために必要なこと〔複数回答〕



②市の対応に対する意見（問 26）

市の対応に対する意見は、「よくセンターを訪れて話を聞いてくれるので助かる」が54.4%と最も多く、次いで「役所に行けば、話を聞いてくれる」が24.3%、「区役所と住民の意見交換の場を増やすべき」が14.0%などとなっている。

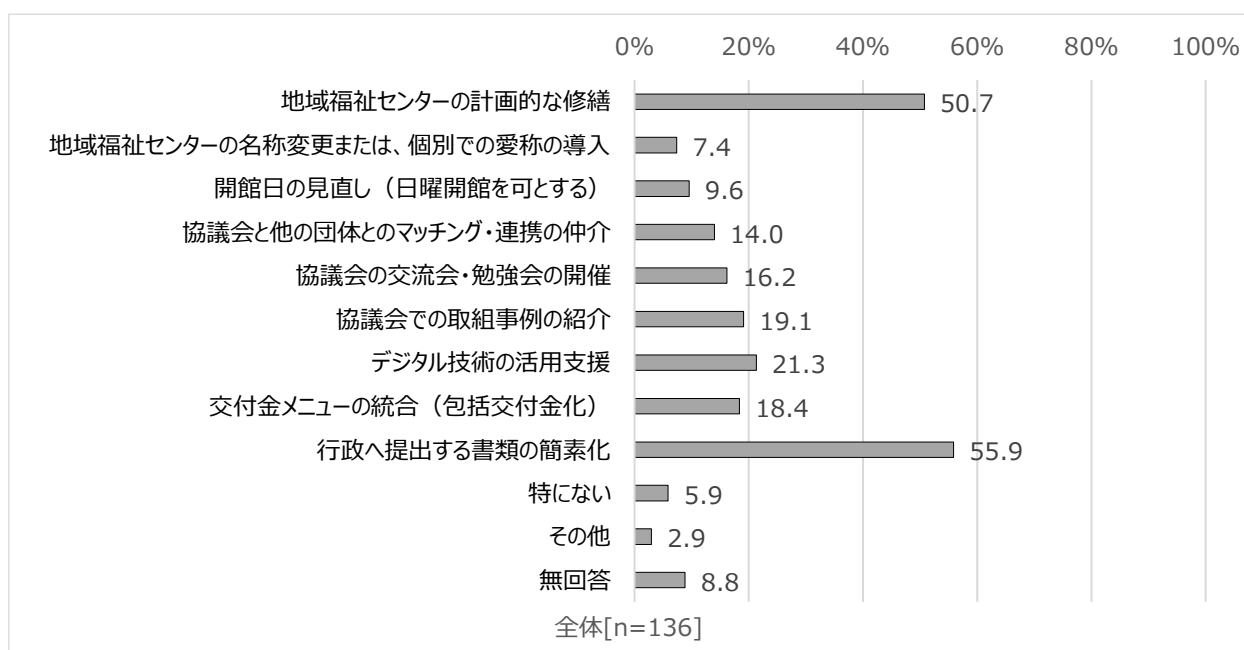
図表 31 市の対応に対する意見



③活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組み（問 27）

活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組みは「行政へ提出する書類の簡素化」が55.9%と最も多く、次いで「地域福祉センターの計画的な修繕」が50.7%、「デジタル技術の活用支援」が21.3%などとなっている。

図表 32 活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組み〔複数回答〕

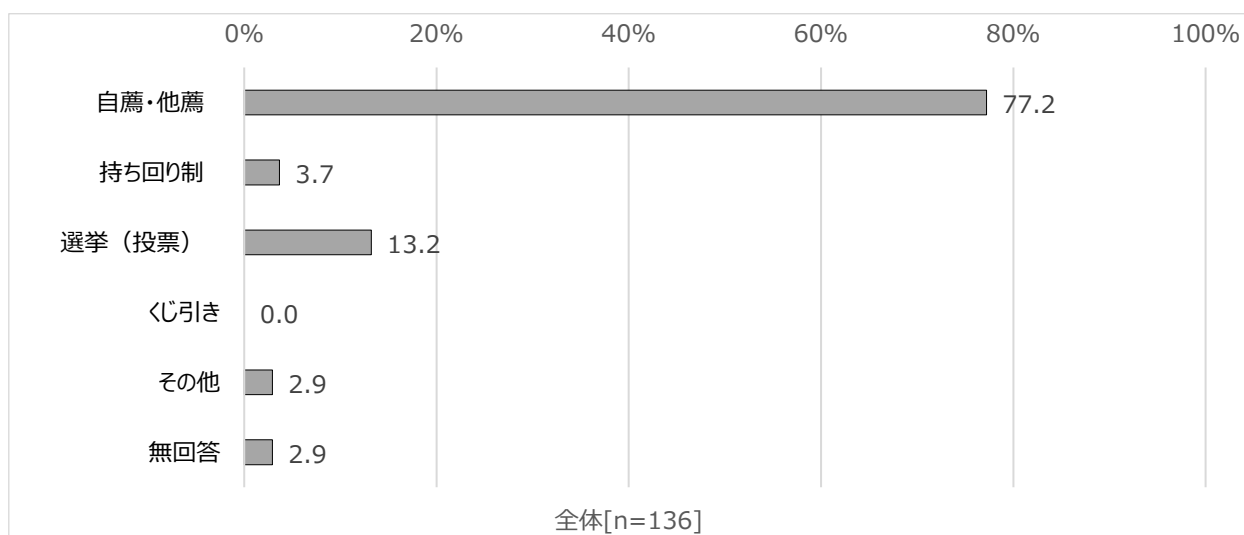


(8) 代表の活動状況

①代表の選出方法（問 28）

代表の選出方法は、「自薦・他薦」が77.2%と最も多く、次いで「選挙（投票）」が13.2%などとなっている。

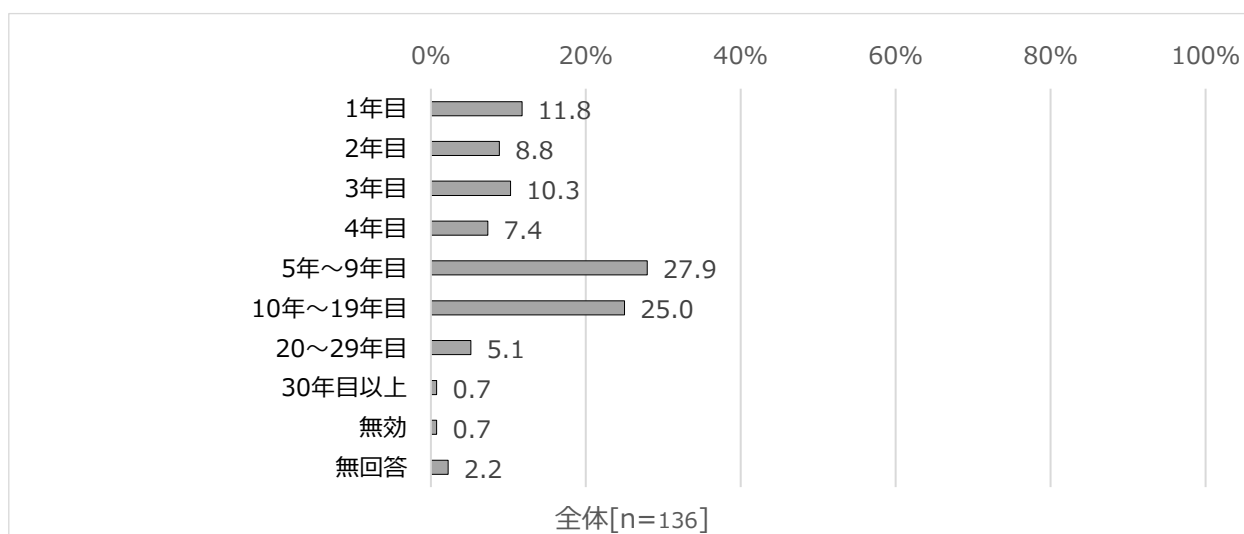
図表 33 代表の選出方法



②代表になってからの年数（問 29）

代表になってからの年数は、「5年～9年目」が27.9%と最も多く、次いで「10年～19年目」が25.0%、「1年目」が11.8%などとなっている。

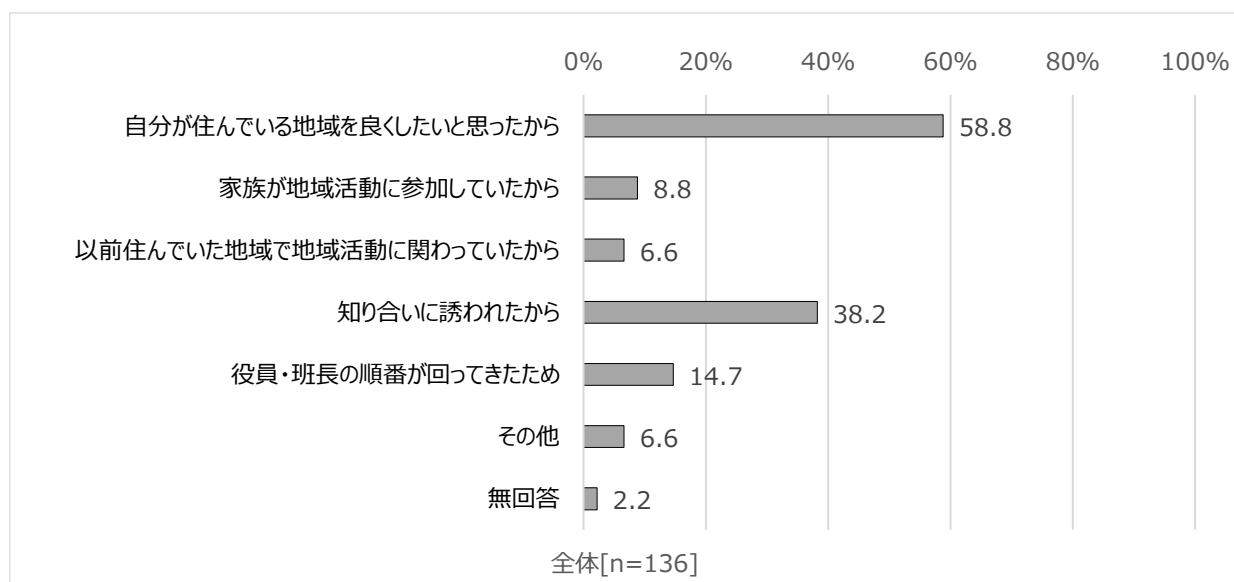
図表 34 代表になってからの年数



③地域活動の担い手として参加したきっかけ（問 30）

地域活動の担い手として参加したきっかけは、「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」が58.8%と最も多く、次いで「知り合いに誘われたから」が38.2%、「役員・班長の順番が回ってきたため」が14.7%などとなっている。

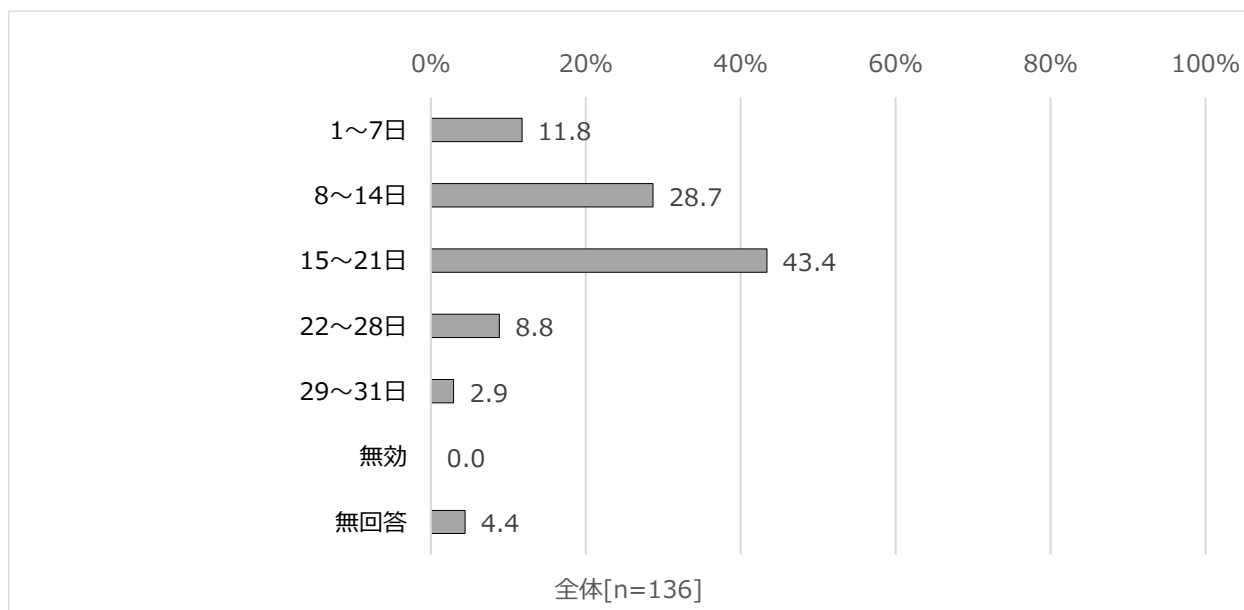
図表 35 地域活動の担い手として参加したきっかけ〔複数回答〕



④地域活動のための月間活動日数（問 31）

地域活動のための月間活動日数は、「15～21日」が43.4%と最も多く、次いで「8～14日」が28.7%、「1～7日」が11.8%などとなっている。

図表 36 地域活動のための月間活動日数

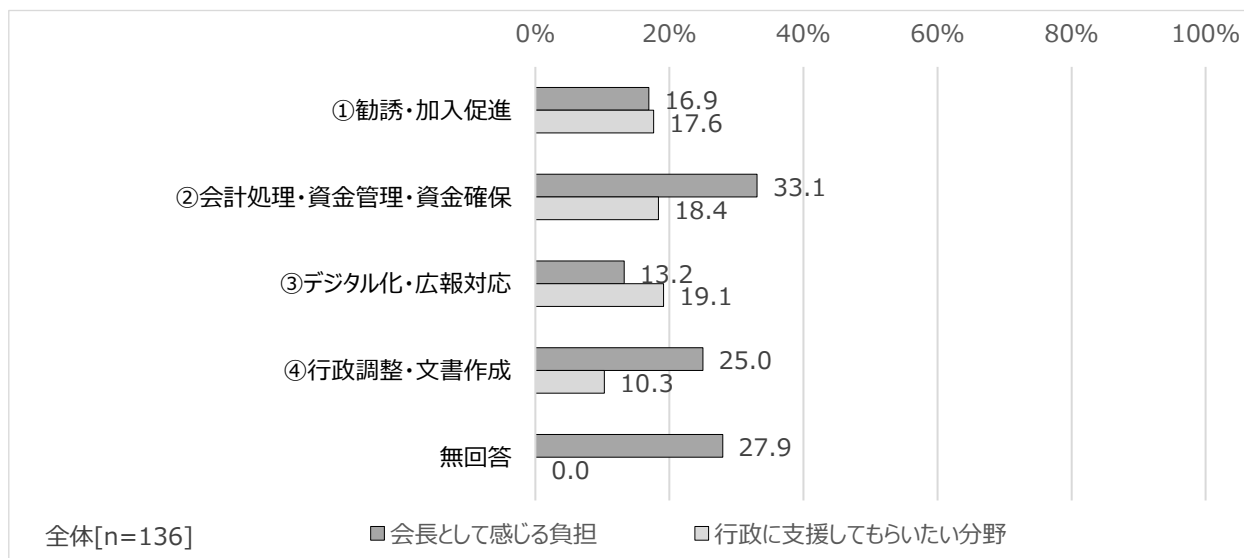


⑤会長として特に感じる負担と行政に支援してもらいたい分野（問 32）

会長として特に感じる負担は、「会計処理・資金管理・資金確保」が33.1%と最も多く、次いで「行政調整・文書作成」25.0%、「勧誘・加入促進」16.9%などとなっている。

行政に支援してもらいたい分野は、「デジタル化・広報対応」が19.1%と最も多く、次いで「会計処理・資金管理・資金確保」が18.4%、「勧誘・加入促進」が17.6%などとなっている。

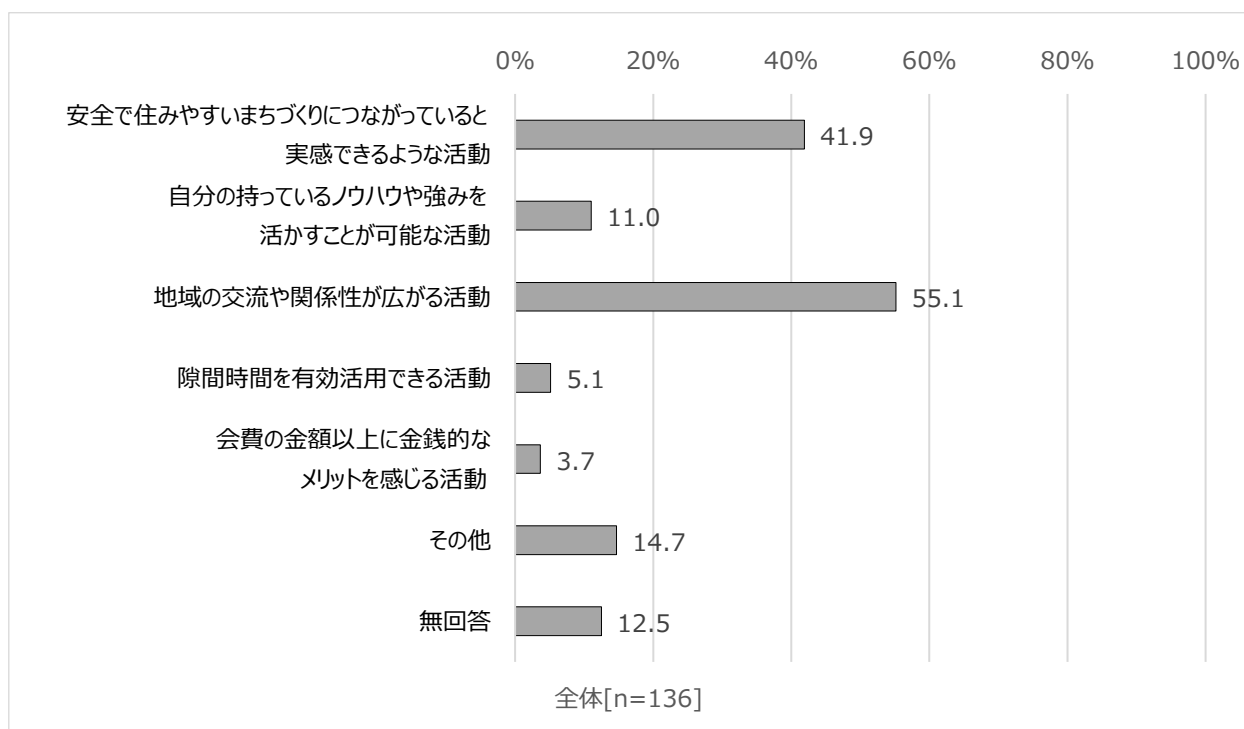
図表 37 会長として特に感じる負担と行政に支援してもらいたい分野〔複数回答〕



⑥他団体や地域住民に勧めたい活動（問 33）

他団体や地域住民に勧めたい活動は、「地域の交流や関係性が広がる活動」が55.1%と最も多く、次いで「安全で住みやすいまちづくりにつながっていると実感できるような活動」が41.9%、「その他」が14.7%となっている。

図表 38 他団体や地域住民に勧めたい活動〔複数回答〕



⑦他団体や地域住民に勧めたい活動（問 33）

図表 39 他団体や地域住民に勧めたい活動

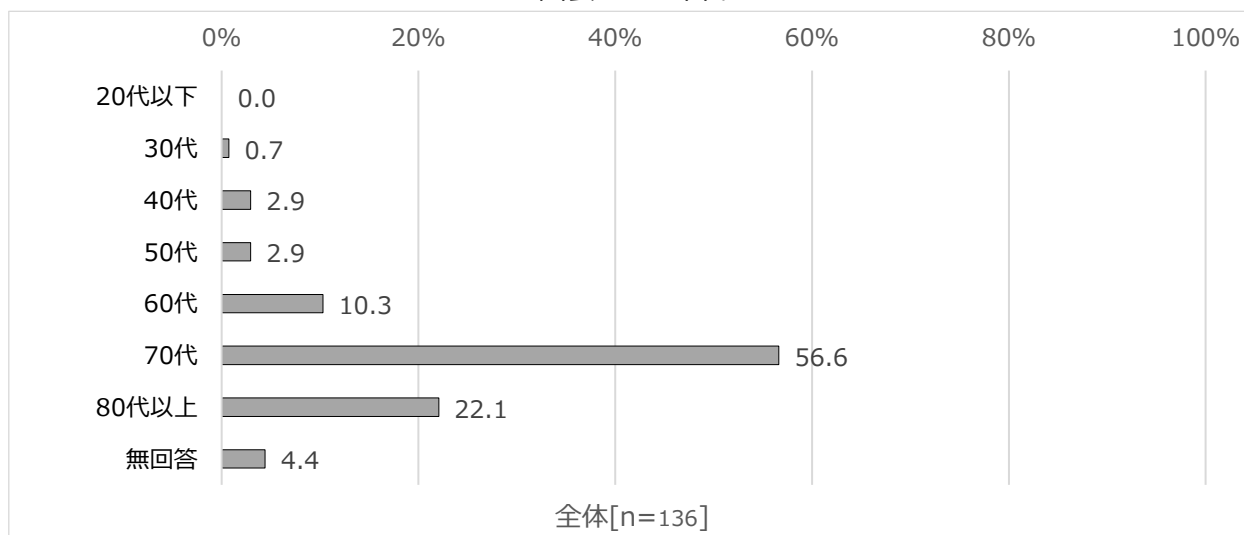
カテゴリ	他団体や地域住民に勧めたい活動
地域交流・イベント系	夏祭り、秋祭り、盆踊り、フェスティバル
	餅つき大会、ハロウィンイベント
	文化祭・作品展
	バザー、お楽しみ会
多世代交流・居場所づくり	ふれあいサロン、ふれあい広場
	ふれあい喫茶、飲み会
	子育てサークル
	高齢者同士の交流機会
子ども・若者向け活動	小学校お泊まり会
	子ども向けイベント（みこし・行事）
	ラジオ体操・見守り活動
	学校と連携した行事
防災・防犯活動	防災訓練
	防犯パトロール
	見守り活動（通学路など）
	防犯カメラ・会議
健康・福祉活動	健康体操・介護予防教室
	認知症予防
	ふれあい給食会
	デイサービスの活動
趣味・学び・講座系	料理教室、手芸、寄せ植え
	パソコン教室
	カラオケ、歌の会、麻雀
地域運営・参加促進	住民主体の施設管理
	ボランティア参加促進
	イベント運営への住民参画
	自治会同士の意見交換（フリートーク）
情報発信・基盤整備	広報誌発行・HP運用
	施設の開放（夜間・休日）
	予約システム導入
	団体間の情報共有
地域貢献・環境整備	清掃活動
	地域見守り
	地域活性化イベント

(9) 代表の状況

①代表（回答者）の状況-年代（問 34①）

年代は、「70代」が56.6%と最も多く、次いで「80代以上」が22.1%,「60代」が10.3%、などとなっている。

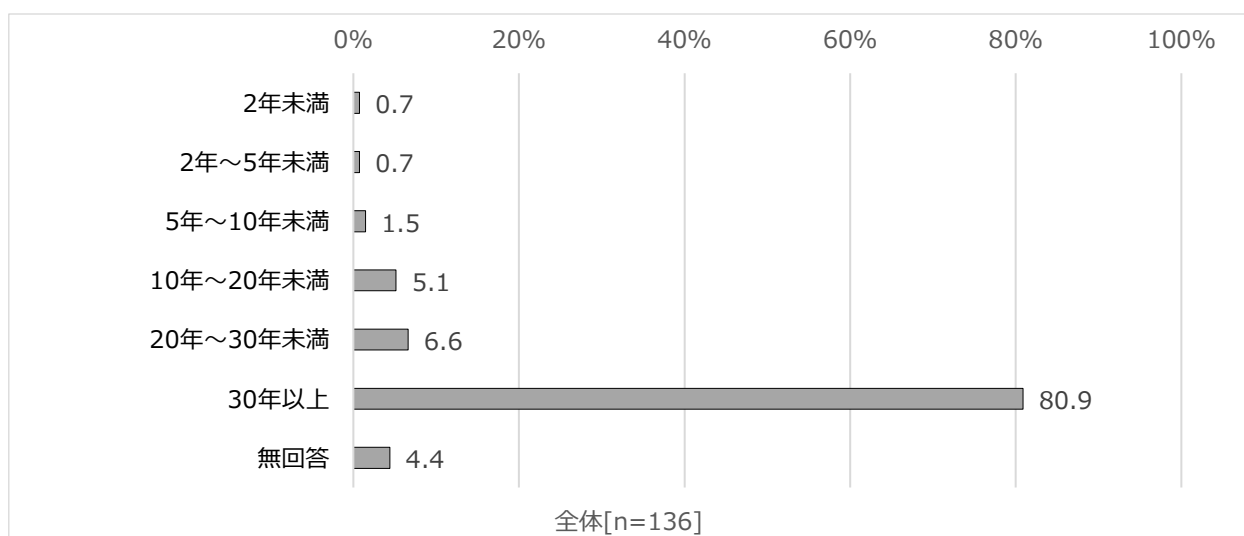
図表 40 年代



②代表（回答者）の状況-現在の地域（小学校区）での居住年数（問 34②）

現在の地域での居住年数は、「30年以上」が80.9%と最も多く、次いで「20年～30年未満」が6.6%、「10年～20年未満」が5.1%などとなっている。

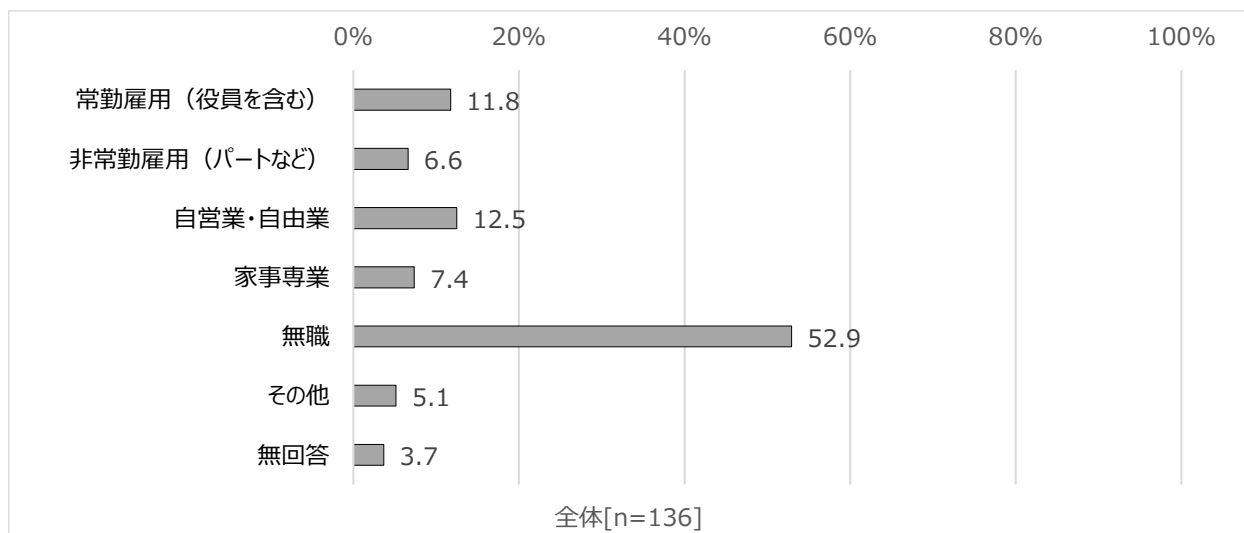
図表 41 現在の地域での居住年数



③代表（回答者）の状況-就業状況（問 34③）

就業状況は、「無職」が52.9%と最も多く、次いで「自営業・自由業」が12.5%、「常勤雇用（役員を含む）」が11.8%、などとなっている。

図表 42 就業状況



(10) 自由意見

①実施している活動/休止している活動/今後特に力を入れたい活動（問 6）

区分	主なご意見
実施活動	文化祭/もちつき/高齢者買物支援（果物予約販売）/子どもお楽しみ会 ウォーキングラリー/夏祭り/敬老のつどい世代間交流運動大会/パソコン教室 スマホ教室/認知症カフェ/手話教室/厚生ボランティア共同事業
休止活動	俳句/スマホ教室
力を入れたい活動	現在状態の継続/有馬文庫事業/こども茶道

②デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問 8）

区分	主なご意見
活用状況	・ ためマップの活用 ・ 予約システムの利用 ・ 会議の議事録作成にAIツールの活用
活用意向	・ 老若男女洋の東西入り乱れての交流会

③デジタル技術活用のために参加したい講習会（問 10）

区分	主なご意見
講習会	・ 神戸市などの助成金活用方法やクラウド活用 ・ 地域の実情、多世代交流など ・ 高齢者を呼び込む方法

④他団体や外部連携に対する関心（問 13）

区分	主なご意見
関心	・ 委員への参画 ・ ほとんどの団体と連携している ・ 企画する地域行事などへの参画 ・ 情報交換

⑤地域住民が活動に参加するメリット（問 17）

区分	主なご意見
メリット	・ 行っている行事を楽しみにしている ・ 参加者の喜ぶ姿を実感できること ・ 子どもにとって有益であること

⑥活動を進めていくための課題（人材面）（問 18①）

区分	主なご意見
担い手	・ PTA.子供会の解散により今後の担い手の繋がりが無くなる、次世代の協力者との繋がりが断ち切れてくる ・ 役員のなり手はいるが委員長のなり手がいない
運用面	・ 働きながらの活動の限界、役職がつくとついてくる会議などが多すぎて負担に感じている役員が多い

⑦活動を進めていくための課題(運営面)（問 18②）

区分	主なご意見
担い手	・ 後継者がいない、少人数での運営で限界 ・ 高齢化、共働きが増え、子育て世帯やX世帯に、運営参加者がいない ・ 現役世代がほとんどの地域であり、役員も住民も多忙で、限られた時間しかない
活動規模縮小	・ イベント参加者が少ない ・ 次世代の団体が無くなることにより参加者も減っている

⑧担い手不足面での課題（新規加入者が見つからない理由）（問 18③）

区分	主なご意見
時間的負荷	・ 高年齢まで働く社会になり、地域活動に関わる余力がない ・ 若年層が仕事で日中の活動ができない ・ 参加意欲はあるが就労している ・ 40代・50代・60代の人たちが仕事等で忙しい ・ 高齢まで働く人が増え、忙しい人が多い ・ 若年層が入りつつあるが、生活に忙しく地域活動にまで余裕がない
負担・責任の重さ	・ 現状の活動は担い手の負担が大きすぎて誘いづらい ・ とにかくなり手がいない ・ 責任があることは嫌だと思われる ・ 行政手続きが煩雑で、平日対応が前提となっている ・ 当番と役員がイコールではなく、住民とのチャンネルが少ない ・ 選挙対応などで休日を長時間拘束される一方、手当が低額 ・ ボランティアを担う人が少ない現状を踏まえると、行政の直接的な助成（人の配置）が必要 ・ 少人数運営で一人当たりの負担が大きい
若年層との価値観のミスマッチ	・ 若年層はたくさんいるが、地域活動に興味を示さない ・ 若い人の地域活動への参加が減ってきている ・ 若年層はボランティアより仕事を求める傾向にある ・ 関心が薄い ・ 世代間ギャップが多く、若手が加入しても意見が通りにくい ・ 若年層が地域活動に親しみをもちにくい
情報不足	・ PR不足があると思う ・ ふれまちのことを把握していない人が多い

⑨地域住民への情報伝達における課題（問 18④）

区分	主なご意見
人手不足	・ 何をするにも人がいない ・ 若手不足、デジタル人材不足 ・ 運営は現役世代ばかりで、センター当番≠役員のため問い合わせ対応が後手になる
情報発信不足	・ HPの閲覧・利用が進んでいない ・ 今後さらにSNSを活用していく必要がある ・ イベントなどの参加者数が読めない
地域との連携不足	・ 各自治会との活動連携ができていない現状を改善したい ・ 掲示板への掲示に非協力的 ・ 配布したチラシ・広報誌を読んでもくれる方に依頼しても、ポスター掲示は半分程度にとどまっている

⑩活役員や中心メンバーの業務負担（問 19）

区分	主なご意見
運営	・ 地域福祉センターの管理運営 ・ 分担して取り組めているが、働きながらの会議や行政などの活動には限界がある

⑪役員・スタッフの関与者を増やすためアディア（問 20）

区分	主なご意見
仕組みづくり	・ ふれまちサポーター制度の導入 ・ 新たな指定管理者の募集 ・ 関係組織ごとに割り当てて人を出してもらっている ・ 行政がヒントを提示すること
人とのつながりを活かした勧誘	・ ひたすら人間性を見込んでの「一本釣り」 ・ 各自治会やイベント参加者に声かけしている ・ エコタウンの協力者を増やしている
状況共有	・ ホームページの活用 ・ 他団体との交流を増やしている ・ 自治会（定例役員会・月1回）で、ふれまちの活動報告等を行っている

⑫今後の展望について（問 22）

区分	主なご意見
継続	・ 新たな指定管理者の募集 ・ ふれまち協として、時代に合った「できること」を実施していくための事業のしほり込み
危機感	・ よりよい方向に行こうと努力しているが、将来については悲観的にならざるを得ない

⑬活動している地域の課題（問 23）

区分	主なご意見
課題	・ 自治会離れ

⑭団体の活動を活発にしていくなために必要なこと（問 25）

区分	主なご意見
運営	・ 高齢になる前に役員交代を行う

⑮活動の活性化に向けて、行政に期待する取り組み（問 27）

区分	主なご意見
活動拠点	・ 施設が狭い ・ 駐車場がない ・ 活動スペースを拡充したい ・ 場所が遠いため、エリアの中心に拠点がほしい
相談制度	・ 問題・相談時のワンストップ化

⑯地域活動の担い手として参加したきっかけ（問 30）

区分	主なご意見
役職・制度上の就任がきっかけ	・ 自治会が出合ふれまちに加入したため ・ 自治会長による選挙で選出された ・ 選挙 ・ 自治会長になったから ・ 民生委員・民生児童委員になった時に誘われた ・ PTAの役員をしていたから
要請	・ 構成団体の代表として参加 ・ 地域団体からの要望により、福祉センター運営見直しに関わった ・ 懇願されて
ボランティア	・ 阪神・淡路大震災のボランティア活動を通じて、地域の結びつきの大切さを知ったから

※下記質問では、有効な回答はなかった。

- ・ 活動の企画・運営を担う主な担い手の人数規模（問 2）
- ・ 主な担い手の年齢の特徴（問 3）
- ・ 活動頻度（問 5）
- ・ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問24）
- ・ 代表の選出方法（問28）

調査票

■ 令和 7 年度 神戸市内地域組織基礎調査

ふれあいのまちづくり協議会 調査結果報告書

(連絡先)

神戸市地域協働局地域活性課 (神戸市内地域組織基礎調査 担当)

電話 : 078-322-6492 (内線 900-2274) FAX : 078-322-6133

電子メール chiiki_kikaku@city.kobe.lg.jp

(調査委託先) 有限責任監査法人トーマツ